

議題：第22号

甲府市教育委員会私有車公務使用規程の一部を改正する規程について（原案）

1 改正の理由

本市では、今年4月から、いじめや不登校などに関する総合的な相談窓口として、甲府市教育研修所内に「甲府市児童生徒支援センター すてっぷ」を開設し、職員が児童生徒の支援のため、家庭や学校等を日々訪問しており、緊急の案件や訪問件数等が多く、交通機関の使用は非効率な状況である。このため、甲府市教育委員会私有車公務使用規程の一部を改正し、教育研修所の職員の私有車の使用を可能とするものである。

2 改正の主な内容

学校教育課において、私有車の登録及び借上料を支払うことができるよう改める。

3 施行期日

公布の日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

4 教育委員会への議題時期

令和5年9月定例教育委員会

議題：第 22 号

甲府市教育委員会私有車公務使用規程の一部を改正する規程をここに公布する。

令和 5 年 月 日

甲府市教育委員会

教育長 數 野 保 秋

甲府市教育委員会規程第 号

甲府市教育委員会私有車公務使用規程の一部を改正する規程

甲府市教育委員会私有車公務使用規程（昭和 5 3 年 4 月教委規程第 1 号）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 1 項中「第 1 号様式）」の次に「又は私有車公務継続使用申請書（第 2 号様式）」を、「行政経営部契約管財室管財課長（」の次に「教育研修所にあつては学校教育課長、」を加える。

第 5 条第 3 項中「第 1 号様式）」の次に「又は私有車公務継続使用許可・借上書（第 2 号様式）」を加え、同条第 4 項中「第 2 号様式」を「第 3 号様式」に改める。

第 1 1 条第 3 項中「管財課長に」を「管財課長等に」に改める。

第 2 号様式を第 3 号様式とし、第 1 号様式の次に次の 1 様式を加える。

第 2 号様式（第 4 条、第 5 条関係）

議題：第22号

第2号様式(第4条、第5条関係)

(表)

私有車公算継続使用 申 請 書
許可・借上 書

甲府市教育委員会私有車公算使用規程の規定に基づき、次のとおり私有車を使用したいので許可及び借上げを願います。
なお、同規程第5条第1項の規定に違反していないこと及び第7条の規定を遵守することを誓じます。

年 月 日

申 請 者
(私有車を使用する者) ㊟

私有車を使用する具体的な理由及び目的		車名及び登録番号						
自動車等の種別及び排気量		所有者及び使用者名						
使用年月日	使用日時	私有車運転命令		行先経路	出発時メーター	終了メーター	走行距離	確認欄
		係長	課長					
	時～分				km	km	km	
	時～分				km	km	km	
	時～分				km	km	km	
	時～分				km	km	km	
	時～分				km	km	km	
	時～分				km	km	km	

(裏)

許可及び借上げの基準の確認事項
(印で記入すること)

確 認 事 項		上 記 欄	可 認 欄	管 理 課 長 等 の 認 定 欄
1	当該出張について、庁用車が使用できないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	通常の交通機関(タクシー等を含む。)を使用した場合には、公算の運行が著しく遅延し、又は困難であること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	当該出張が、山梨県内の地域であり、かつ、宿泊を要しないものであること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	当該出張が、正規の勤務時間内であること。ただし、緊急その他やむを得ない理由があると認められるときは、この限りでない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	当該職員が、当該私有車と同種(道路運送車両法第3条に規定する種別による同種のものという。)の自動車又は原動機付自転車について、2年以上(総排気量が0.1リットル以下のものについては、6箇月以上とする。)の実働の運転経験があり、かつ過去1年以内において道路交通法に違反する事実を理由として懲戒処分を受け、又は同法第6条第6節の規定により免許の取消し、停止等の処分を受け、若しくは同法第8条の規定により刑罰に処せられたことがないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	当該私有車について、自動車損害賠償保障法に基づく自動車損害賠償責任保険の契約を締結していること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	前号に定めるもののほか、当該私有車の運行によって、他人の生命又は身体を害したときの損害賠償について7,000万円(原動機付自転車については5,000万円)以上及び他人の財産に損害を与えたときの損害賠償について200万円(原動機付自転車については100万円)以上の保険契約を締結していること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	当該私有車が道路運送車両法第3条に規定する保安基準に適合し、かつ、車両の整備及び検査が適確に行われていること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

附 則

この規程は、公布の日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

議題：第 22 号

第 5 条 第 1 項～第 2 項 (略)

3 管財課長等は、第 1 項の許可及び前項の借上げをしたときは、速やかに、私有車公務使用許可・借上書 (第 1 号様式) 又は私有車公務継続使用許可・借上書 (第 2 号様式) を交付するものとする。ただし、第 4 条第 2 項に規定する口頭で申請のあったときは、当該職員の当該用務終了後においてもこれを行うことができる。

4 管財課長等は、毎月、私有車の公務使用の状況等について、翌月の 10 日までに、私有車公務使用状況報告書 (第 3 号様式) により、部長を経て行政経営部長に報告しなければならない。

第 6 条～第 10 条 (略)

(借上料)

第 11 条 1 項、2 項 (略)

3 借上料の請求は、前条に規定する走行距離確認の後、管財課長等の指定する請求書に私有車公務使用許可・借上書を添付し、管財課長等に提出してしなければならない。

第 12 条～第 13 条 (略)

第 5 条 第 1 項～第 2 項 (略)

3 管財課長等は、第 1 項の許可及び前項の借上げをしたときは、速やかに、私有車公務使用許可・借上書 (第 1 号様式) _____ を交付するものとする。ただし、第 4 条第 2 項に規定する口頭で申請のあったときは、当該職員の当該用務終了後においてもこれを行うことができる。

4 管財課長等は、毎月、私有車の公務使用の状況等について、翌月の 10 日までに、私有車公務使用状況報告書 (第 2 号様式) により、部長を経て行政経営部長に報告しなければならない。

第 6 条～第 10 条 (略)

(借上料)

第 11 条 1 項、2 項 (略)

3 借上料の請求は、前条に規定する走行距離確認の後、管財課長等の指定する請求書に私有車公務使用許可・借上書を添付し、管財課長 _____に提出してしなければならない。

第 12 条～第 13 条 (略)

報告：第11号

令和5年度

教育委員会総合教育視察結果の集約

◇視察日時

令和5年6月23日（金）

◇視察目的

学校経営についてその管理運営や指導体制のあり方を確認する。加えて、児童生徒の学校生活の様子を把握する。

視察の観点

- ・学校経営（学校の特色、信頼される学校づくり、生徒指導体制 児童生徒の様子 等）
- ・防犯体制（児童生徒の安全管理、安全確保・不審者侵入時の危機管理 等）
- ・備品等の管理状況の確認（GIGA端末保管状況、薬品庫等）

◇視察報告の集約

1 小中学校

1) 学校経営全般

2) 防犯体制・施設・備品管理体制

3) その他

1 小中学校

1) 学校経営全般

- ・小中連携に努めており、家庭学習等に関して情報交換や共有に努めているとのことであつた。中学校への敷居を低くし、小中のつながりが円滑になることは大変重要であり、今後も、一層取組を進めてほしいと感じた。
- ・明るく元気に気持ちのよい挨拶ができる子供たちに大変感心するとともに和やかな気持ちになることができた。
- ・ベテラン教員と若手教員が多く、中堅の教員が少ない現状ということであつたが、これは、山梨県や甲府市でも同様の課題であり、簡単に解決できない現状である。した

報告：第11号

がって、学年や分掌の担当者が相互に情報交換を密にして、充実した指導につなげているといった取組を引き続きお願いしたい。

- ・突発的な出来事にも、複数の教員で丁寧にきめ細かに指導に当たっている様子が見られた。
- ・甲府支援学校、盲学校など近くの特別支援学校との交流を進めているとのことで、障害のある児童とふれあう機会があることは、学校の一つの特色でもあるので大変大切なことであると感じた。
- ・ICTに力を入れており、タブレットを利用したタイピングコンクールや写し絵コンクールなど児童と教師が一緒にやらざるを得ない、また必然的にICTに触れる環境づくりを学校長が計画して取り組んでいる。それぞれのコンクールの結果は、廊下の「コンクール」コーナーに掲示されていた。
- ・働き方改革にも力を入れており、概ね18時には帰宅できているとのことであった。
- ・教員一人の負担が大きい。一人の先生が他学年もみている。若い先生のメンタル面でのケアをしながら学校運営をしている、と説明があった。
- ・様々な学校行事のコロナ後の戻し方に戸惑いがあるが、切るものは切って行事を再開していくとのことであった。
- ・1年生の教室では元気なあいさつが聞かれた。情緒のクラスでは、丁寧な授業がなされていた。2年生の教室には黒板に「めあて」があり、5年生の授業ではクロムブックが利用されて活発な授業風景が見られた。
- ・現在、欠員が2名あり、校長先生も特別支援学級の児童を担当されていた。特別支援学級の児童は、登校時に校長室に入室してから教室に入るとのことで、校長先生との関係が親密だった。
- ・若い先生に対して、周りの先生にアドバイスをもらうように促したり、OJTを行っており若い先生には心強いと感じた。
- ・大規模校として教員数が多いことから、専門・得意分野を活かす指導体制の確立や、校務分掌での中堅・若手の抜擢、登用による人材育成などに取り組んでいる。
- ・豊かな心の育成の取組として、月曜日の授業終了後に児童会が主体の児童同士のきずなタイム、教師と児童がふれあう時間を設けている。
- ・少人数学級を活かし、教師と児童の対話からなる授業がおこなわれていた。授業内でのグループ活動は難しい現状にあるが、休み時間には全学年が一緒に遊ぶなど、関係性づくりが大切にされている。
- ・少人数グループ活動を組み込まれており、児童は集中して学習に取り組むとともに、活気ある意見交流がなされていた。教育目標達成に向けた1つとして挙げられている「授業を大切に作る教師集団づくり」が実現された授業風景であると感じた。
- ・「すべての子どもが安心して生活できる」ことを第一に考えた学校運営に取り組まれている。その一例として、学級や学校に生徒自身が貢献していると感じられる係等に

報告：第11号

関する掲示物や、生徒が居場所感を感じるとともにお互いを理解するきっかけにもなる掲示物が工夫して貼り出されていた。

- ・コロナの扱いが緩和されたことを受けて、学校でも授業や特別活動、とりわけ学校行事等でコロナ前に戻ることが可能になっている。ただ、コロナへの対応の中でこれまで気づけなかったこと、見えなかったことが把握できたのではないかと思う。コロナがなければ、ここまで大胆に取組を変えることはなかったのだから、そこで得られた多くの知見は、今後に活かしてほしい。合理的な判断をすることで、変えられるものは大胆に変える、また、戻すものはしっかりその意義を確認していくことが大切なのではないかと思う。制服の扱いなど正にその典型のように感じた。
- ・多忙化の改善に関わっては、次から次へと新しい課題が出現し、簡単に時短につなげられないのが現状であると思う。こうした中では、先生方にも達成感や充実感が味わえるようにしていくことが大切だと思う。管理職の先生方には、一人一人の教職員をねぎらったり、称えたりして、やり甲斐が感じられるような配慮もお願いしたい。
- ・甲府市では「甲府スタイル」の授業に取り組んできており、それなりの成果が上がっていると感じている。「甲府スタイル」の授業は特別なことをしようとするものではないので、若手の教員には一つの授業モデルとして、また、ベテランの教員には授業の原点を確認するものとして、今後も授業改善に活かして行ってほしい。
- ・学校長自らが率先して教師や児童がICT・一人一台端末を必然的に利用する環境づくりをしており、適切な指導がなされていると感じた。
- ・今回の参観ではICTを利用している授業風景がみられなかったのが残念であった。積極的にタブレット端末などを文房具の様に使いこなす環境づくりをお願いした。
- ・コミュニティスクール導入前から、既に地域との連携がしっかりとなされていて素晴らしい。
- ・「校区探検」にクロムブックを持っていく等、既にICTの活用をされているが、児童が文房具の様に使いこなせる様に更なる指導をお願いした。
- ・長時間労働の是正は喫緊の課題であり、管理職がやる気を出して取り組まなければならない。既に、ノー会議デーの取組はあるが、出退勤管理を徹底していただきたい。
- ・運動会を地域と合同で開催するなど、地域との連携を意識されている。小規模校ということもあり、児童が安心して過ごせる環境づくりには、地域の方の理解と協力がとても重要となる。今後もそういった地域との連携・協力体制づくりをお願いしたい。

2) 防犯体制・施設・備品管理体制

- ・学校内を巡視及び施設確認を行ったところ、全ての教室等において整理整頓されていた。
- ・理科準備室、家庭科準備室、図工室内にある危険な薬品や包丁等は、しっかりと施錠されており、それぞれ管理簿も備えてあり、適切に管理されていた。

報告：第11号

- ・クロムブックは固定された充電保管庫に保管し、授業終了後は鍵をかけて適切に管理されていた。
- ・教室や廊下も明るい雰囲気になっており、子供たちが前向きに生活できる環境が整えられていて好感が持てた。
- ・教員の防災意識は高く、予告なしでの避難訓練の実施や、荒川が近いという地域性を考慮し、水害を意識した対策にも取り組まれている。
- ・施設は適切に施設管理されている。端末管理は生徒が使えるように扉が開放されているが、教室内に設置されているため、教室移動の際には教室が施設されるので問題はない。
- ・理科室の薬品庫の利用日が記入されていないものがあったため、今後は記入を忘れないようにしていただきたい。
- ・各教室・廊下にも花が飾られきれいな環境であった。教室も全体的に整理され、ランドセルも整頓されて棚に入っていた。学びに集中できる環境づくりを引き続き継続して頂きたい。
- ・水やりをしないで枯れた花鉢がある教室や後方の棚の下部から荷物の紐が出でいて足元が危ないと感じられた教室があったので注意をお願いした。また、黒板に「めあて」が示されていない教室もあったので、甲府スタイルの授業を取り入れた授業改善をお願いした。
- ・校内の整理整頓はされていたが、3階の非常階段に鳥の糞が溜まっていた。

3) その他

- ・HPを保護者の協力を得て改善するなど、学校と保護者の良好な関係性が伺えた。これも先生方の日ごろからの児童と保護者への応答的な対応があつてのことだと感じた。引き続き、良好な協力体制を大切にしていきたい。
- ・不登校・不登校傾向の生徒について、「あすなろ」の検討も伝えた。
- ・学級文庫が充実しており、学年・クラスによっても特色がみられた。クラスの学習状況と合わせた図書の貸し出しもおこなわれているとのことであった。今後もこういった点を大切にしていきたい。

令和5年度 全国学力・学習状況調査

甲府市における調査結果のポイント

..... も く じ

1	調査の本市の概要	P 1
2	教科に関する調査の本市の結果について	P 2
3	質問紙調査の本市の結果について	P 20
4	資料1	P 41
5	資料2	P 46

甲府市教育委員会 学校教育課

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和5年4月18日(火)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年, 中学校第3学年

○調査内容

〔教科に関する調査〕

小学校・・・国語, 算数 中学校・・・国語, 数学, 英語

◇出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や, 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や, 様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。

調査問題では, 上記①と②を一体的に問う。出題形式は, 国語及び算数・数学においては, 記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては, 「聞くこと」, 「読むこと」, 「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し, 記述式の問題を一定割合で導入するとともに, 「話すこと」に関する問題の解答は, 原則として口述式による。

〔生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査〕

◇児童生徒に対する調査

・学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査。

◇学校に対する調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

※児童生徒質問紙調査については, 一部の学校で, 児童生徒が活用するICT端末を用いて実施。

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校	6年生・1212人
中学校	11校1分校	3年生・1179人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)		中学校(3年生)			
		国語	算数	国語	数学	英語 (聞・読・書)	英語 (話)
全 国		67.2	62.5	69.8	51.0	45.6	12.4
山梨県		66	61	70	50	43	
甲 府 市	国との 比較	△	△	○	○	△	△
	県との 比較	○	○	○	○	○	

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている，△は下回っている

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科(国語・算数・数学・英語)において、全国と比べて-0.6%から+1.2%の範囲内(昨年度-0.6%から+1.0%)にある。

〔小学校〕

・すべての教科(国語・算数)において、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率は上回っている。

〔中学校〕

・国語および数学は、全国平均正答率と同程度、もしくは上回っているが、英語は下回っている。

(2) 各教科の結果

■ 小学校国語

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

○該当なし

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5, 6年 話すこと・聞くこと	H31 3 三 R2 1 三

3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5, 6年 言葉の特徴や使い方に関する事項	H30A7
----	--	--------------------------	--------------------------	-------

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	5, 6年 書くこと	H311一 R22三

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率については、県を上回り、全国とは同等の結果であった。
- 無解答率については、前回と比較し高く、全体的に全国、県と比較しても高い傾向がみられた。特に、記述式の問題にその傾向が大きかった。
- 「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」設問については、全国や県と比較して低かった。(H30の同様の問題では、県や全国を上回ったが、平均正答率はやはり低かった。) 日常的に敬語に触れ、理解することについて課題がみられた。
- 昨年度課題であった「書くこと」(思考力、判断力、表現力等)に関する設問については、本年度も平均正答率が低く、県・全国を下回った。また、下に示す力を問う、「話すこと・聞くこと」「読むこと」(思考力、判断力、表現力等)に関する記述式の設問の平均正答率が低く、県・全国を下回った。
 - ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること(「話すこと・聞くこと」)
 - ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること(「読むこと」)

【 改善のための方策 】

○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

- ・伝えたいことを明確にし、自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフを用いることが有効であることや、どのような図表やグラフを用いるとよいかを考えられるようにすることが大切である。そのためには、様々な図表やグラフの特徴や優れている点について、他教科等と関連して指導していくことが必要である。
- ・推敲の際には、自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫として、図表やグラフの用い方は適切か、それらを用いることで書く必要がなくなった文章がないか、説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、などを観点に文章を見直すことが大切である。また、学習の状況に応じて、モデルとなる文章を提示することも効果的である。
- ・なお、図表やグラフの出典については（引用文同様に）、著作権を尊重し保護するために必ず明記することの指導が必要である。併せて図表を用いる場合には、本文に「図1は、～」、「表1は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことの指導も必要である。

○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・話し手の目的や自分に伝えたいこと、共に考えたいことは何かなどを踏まえて話を十分に聞くことや、自分が求めている情報やその情報をどのように生かそうとするのか、そのために相手から引き出したい情報などを明確にして聞くようにすることが大切である。
- ・インタビュー前には自分が知りたいことや疑問に思っていることの整理や、答えの予想をしておく準備が必要である。そして、インタビューの進め方を友達と確認し合いながら吟味していくとより効果的である。インタビューの際には、知りたい内容に関する言葉を取り上げ、質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていくよう指導することが必要である。
- ・聞き取った内容をもとに自分の考えをまとめる活動では、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめていくようにすることが大切である。

○日常よく使われる敬語を理解し、使えるようにする指導の充実

- ・日常生活の具体的な会話の場面を想定し、相手と自分との関係を意識しながら尊敬語と謙譲語について理解することが大切である。そのために、発達段階に応じ、日常生活の中で相手や場面に応じ、適切に敬語を使うことに慣れるように、学んだことを学校行事や来客時など様々な機会と関連させて指導することが効果的である。また、本設問のように、学習の振り返りの場面を活用し、敬語が使えたかどうかを確かめる活動も効果的である。
- ・「おっしゃる」や「申す」のように特別な言葉を使った言い方や、「お（ご）一になる」や「お（ご）一する」のような言い方があることなどを理解できるようにすることも必要である。家庭学習など実生活につなげ、言葉遣いについての興味関心を広げ積極的に使おうとする態度をはぐくむ活動を取り入れることが大切である。

■ 小学校算数

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

○該当なし

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	3年, 5年 図形	H27B 3 (2)
3 (3)	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり, 分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり, 分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4年 数と計算	H19A 1 (7) H20A 1 (5) H21A 1 (6) H22A 1 (6) H23A 1 (4) H23A 1 (5) H24A 1 (5) H25A 1 (5) H26A 1 (5) H29A 2 (3) H31 2 (4)

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	3年, 5年 図形	H27B 3 (2)
2 (4)	テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について分かることを選び, 選んだわけを書く	高さが等しい三角形について, 底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し, その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年 図形	H19A 5 (2) H21A 6 H22B 4 H25B 3 (2) H25B 3 (3) H29A 5

【本市の傾向・課題】

○全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、全国及び県と同様に、無解答率が高い設問もある。

- 「数と計算」の領域では、一の位が0のつく二つの2位数の乗法の計算をすることはできている。また、()を用いた式や、加法と乗法の混合した式から場面を関連づけて読み取ることもできている。しかし、示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉で記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する設問では、全国及び県を上回りはしたが、低い正答率となった。
- 「変化と関係」の領域では、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることはできている。また、二つの数量の関係が比例の関係ではないことの説明において適切な数の組を用いることもできている。しかし、百分率で表された割合について理解しているかをみる設問では、全国及び県を上回りはしたが、低い正答率となった。
- 「データの活用」の領域では、「以上」の意味を理解し、必要な数を読み取ることはできている。複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉や数を用いて記述したり、二次元の表から、条件に合う数を読み取ったりする設問では、全国及び県を上回りはしたが、低い正答率となった。
- 「図形」の領域では、正方形の意味や性質について理解することはできている。しかし、正三角形の意味や性質について理解すること、高さの等しい三角形において、底辺と面積の関係から面積の大小を判断し、理由を記述することに課題がある。

【 改善のための方策 】

○「数と計算」に関する指導の充実

- ・(2位数)÷(1位数)の筆算について、(1位数)÷(1位数)の筆算の段階から、図を用いたりしながら、何の位の計算を行っているのかの理解を深めていくことにより、各段階における商の意味を考えるようにする。
- ・四則計算の優位性や、()を使った式の特徴などに日頃から触れていくとともに、場面を解釈しながら数量の関係を捉えることにより、問題の解決方法について式や言葉を用いて説明できるように指導していくことが大切である。

○「変化と関係」に関する指導の充実

- ・伴って変わる二つの数量の関係が比例となる場合の特徴を押さえ、知りたい数量の大きさの求め方や答えについて、式や言葉で記述できるようにする。
- ・百分率で表された割合を、日常生活や他教科から探し、割合に慣れ親しむ活動を取り入れ、割合の特徴についての理解を図る。

○「データ活用」に関する指導の充実

- ・日頃より、日常生活や他教科においてグラフに慣れ親しむ活動を多く取り入れる。また、複数組み合わせられたグラフを読み取る力を身に付けさせていくことが大切である。
- ・データの特徴を捉える力を養うために、表の意味を理解し、表を読んだり作成したりする活動を積極的に取り入れていく。

○「図形」に関する指導の充実

- ・図形において、具体的な数値が示されていない場合、その図形のもつ意味や性質を基に、必要な情報を発見できるようにしたり、適当な数値を当てはめたりしながら考えられるように指導していくことが大切である。
- ・図形のもつ意味や性質を基にしながら構成する要素に着目し、その図形の特徴について考察できるように指導していく。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	2年 読むこと 我が国の言語文化に関する事項	
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2年 言葉の特徴や使い方に関する事項	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	1年 我が国の言語文化に関する事項	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

○該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

○該当なし

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、多くの設問で全国平均を上回っている。また、各領域全体では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てで全国平均を上回っている。記述問題については、全国を上回っている。
- レポートの下書きの一部を直す意図として適切なものを選択する設問（3の一）については、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることについて課題が見られた。
- 古典の原文中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す設問（4の二）については、課題が見られた。

【 改善のための方策 】

○ 「自分の考えが伝わる文章を書く」ための指導の充実

- ・「伝えたい自分の考えを明確にする」、「考えを支える根拠となる具体例を選ぶ」、「文章の中に自分の考えと根拠となる具体例を書く」などに留意して、根拠を明確にして書くということはどういうことなのか理解できるように指導していくことが大切である。

○ 「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解できるようにするための指導の充実

- ・「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える」ために、授業で原文を音読し古文の特徴を捉えるように指導していく。
- ・「歴史的仮名遣い」などの知識を確認して、もう一度原文を音読し、古典の楽しみ方を見いだすことができるように指導していく。
- ・わかりやすい現代語訳を読み、面白さや工夫されている点を付箋に書く。次にその付箋に対応する古典の原文の部分を探して別の色の付箋に書く。グループで付箋を整理しながら交流する活動を仕組む。その際に気づいたことを伝え合うだけでなく、根拠となる表現（言葉）を意識した交流を行う活動が考えられる。

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年 データの活用	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1	-5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1年 数と式	H28A1(2)
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	2年 データの活用	
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年 関数	H30B3(1)

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上になり3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	1年 図形	
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説	2年 データの活用	

	由を，箱ひげ図の箱に着目して説明する	明することができるかどうかをみる		
9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを，三角形の合同を基にして，同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2年 図形	
9 (2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて，二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を，証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	2年 図形	

【本市の傾向・課題】

- 全国平均正答率とほぼ同等の結果となっている。「思考・判断・表現」を評価する記述式の設問では，平均正答率が全国を上回っている。
- 「数と式」の領域では，「数の集合を捉え直し，自然数や整数の意味を理解すること」に関する問題に課題がある。
- 「図形」の領域では，「空間における平面が一つに決まるための条件を理解すること」「図形の性質を考察する場面で，事柄が成り立つことを構想に基づいて証明したり，証明を振り返って本質的な条件を見いだしたりすること」に関する問題の正答率は全国同様に低い。
- 「関数」の領域では，「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフについて，事象に即して解釈すること」に関する問題に課題がある。
- 「データの活用」の領域では，「四分位範囲の必要性と意味を理解すること」に関する問題に課題がある。また，「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に関する問題の正答率は全国同様に低い。

【 改善のための方策 】

○「数と式」に関する指導の充実

- ・正の数と負の数の必要性や意味を，具体的な場面に結び付けて考える学習活動を設け，活動後に，正の数と負の数の必要性や意味について振り返り，自然数や整数の意味を確認することが大切である。
- ・数の集合を捉え直すことは，第3学年の有理数や無理数の学習においても大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・身の回りにある事象から，空間において平面が一つに決まる条件を見だし，実感を伴って理解することができるよう指導することが大切である。「カメラを固定する三脚が安定して立つことができるのはどうしてか」といった身の回りにある事象から問題を設定し，その理由を考察する学習活動などが考えられる。三脚と地面が接している部分を点として捉え，3点とそれらの点を含む平面に着目し，3点がどんな位置関係にあっても平面が一つに決まるといってよいかについて話し合い，3点が同一直線上にない場合に平面が一つに決まることを理解できるようにする。

○「関数」に関する指導の充実

- ・日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや，表，式，グラフを相互に関連付けて考察することなど，問題解決の過程を振り返り，関数を活用することのよさを実感できるようにすることが大切である。その際，問題の中で理想化・単純化されているものを確認したり，数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりする場面を設定するようにする。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・データを収集して分析し，それを基に分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断するとともに，その理由について説明し合う場面を設定することが考えられる。その際，自分が判断した事柄とその根拠について，数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切である。
- ・箱ひげ図の箱の長さは四分位範囲を表しており，箱で示された区間には，全データのうち中央値を中心とする約半数のデータが含まれていることから，箱の位置と事象とを関連付けて捉え，統計的に問題解決することができるようにすることが大切である。

■ 中学校英語【聞くこと・読むこと・書くこと】

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

○該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	読むこと	
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	読むこと	H31 6
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと	H31 8
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	書くこと	
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確	書くこと	

		に書くことができるかどうかをみる		
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	書くこと	H3110

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国平均をやや下回っているが、県平均は上回っている。
- 「聞くこと」においては、日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ることや、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取るとは概ねできているが、自分の置かれた状況等から判断して必要な情報を聞き取ることには課題がある。
- 「読むこと」においては、日常的な話題について、事実と考えを区別して読むことは概ねできているが、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることや、短い文章の概要を捉えることには課題がある。
- 「書くこと」においては、疑問詞を用いた疑問文を正確に書くことに課題がある。また、社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くことや、日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くことも課題がある。しかし、無解答率は全国平均よりも低く、書こうとする意欲は見られる。

【改善のための方策】

○必要な情報を捉えることを意識した「聞くこと」の指導について

- ・話されることの全てを聞き取るのではなく、聞きながら自分が何をしなくてはならないのか、それに関して必要な情報は何かなどに注意しながら聞かせるようにする。
- ・そのために、自分の置かれた状況を把握できているか、何を聞き取ればよいのかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取るように指導することが考えられる。
- ・店や公共機関など、日常生活で考えられる場面で用いられる簡単なアナウンスなどを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動や、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞き、その内容を把握し、適切に応答する活動などを行うことが考えられる。

○必要な情報を捉える、概要を把握することを意識した「読むこと」の指導について

- ・複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取らせるようにすることが大切である。
- ・できるだけ現実に近い場面設定をするとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取ることが大切である。その際、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導が考えられる。
- ・日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレットなどの短い文章から、自分が必要とする情報を読み取る活動を行うなど、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していけるように指導する。
- ・概要を把握する活動としては、日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動を行うことが考えられる。その際、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりに、段落内の情報の関係を正確に把握したり、各段落の主な内容を関連付けたりすることにより、文章全体の大まかな内容を捉えることができるよう指導する。

○自分の考えなどを「書くこと」の指導について

- ・普段から聞いたり、読んだりしたことについて、自分の意見や考えを伝え合う活動を行うようにする。また、自分が述べたことや伝え合ったことについて、書く活動につなげるなど、領域を統合した活動を行う。
- ・読んだことを基に自分の考えを書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。
- ・テーマについて自分の考えをまとまりのある文章で書くためには、事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが重要である。そのためには、テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導する。
- ・書く内容を目的に応じて選んだり、どういう構成がよいか判断したり、相手や目的によって表現を工夫したりすることができるよう指導する。また、書いたものをペアやグループで読み合い、言語面での気付きを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べ合い、自分の書いた英文を推敲するなど、段階的な指導を行うようにする。

■ 中学校英語【話すこと】

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

○該当なし

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (3)	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	話すこと 【やり取り】	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (1)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える	日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	話すこと 【やり取り】	H31「話すこと」1 (1)
1 (2)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、次の予定を伝える	未来表現 (be going to) を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	話すこと 【やり取り】	
1 (3)	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	話すこと 【やり取り】	

1 (4)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える	日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる	話すこと 【やり取り】	
2	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	話すこと 【発表】	

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。
- やり取りの場面で、聞いたことを理解して、既習内容を活用し、即興で伝え合うことに課題がある。
- 社会的な話題に関して聞いたことについて、自分の考えとその理由を話すことに課題がある。
- 全体的に、無解答率は全国平均よりも低く、どうにかして話そうとする意欲は見られる。

【 改善のための方策 】

○聞いたことを基に、即興で伝え合うことの指導について

- ・日常的に Small Talk などやり取りをする場面を授業の中に設定するなど、相手の発話に応じ、即興で伝え合う言語活動に取り組むことが考えられる。その際、相手に聞き返したり確かめたりすること、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えること等、対話を継続・発展させるために必要なことも指導する。
- ・言語活動を行うに当たっては、語や文法事項等の正確な使用が必要であり、文法事項においては、形式や意味、どのような場面で活用できるかを正確に理解することが重要である。内容の伝達に重点を置きながらも、活動中の言語使用について具体的にフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることが求められる。その際に、1人1台端末を活用して生徒自身が使用した英語を振り返ったり、やり取りした内容を整理して書いたものをペアやグループで読み合い、正確な語や表現について話し合ったりすることが考えられる。

○聞いたことを基に、自分の考えとその理由を「話すこと」の指導について

- ・話される内容を理解した上で、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要である。
- ・日頃の授業から聞いたり読んだりしたことを基に、生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会を設定する。また、自分の考えだけでなく理由を考えさせたり、必要に応じて生徒の発話に対して理由を尋ねたりすることなどを継続的に指導する。
- ・聞いたり読んだりして得た知識や情報をメモにしたり、図式化したりすることも有効である。それらを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動を行うことが考えられる。また、聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動なども考えられる。

(3) 無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無回答率が高かった設問数					
小学校	R 4 年度	国語	算数	理科	
		8問／14問中	5問／16問中	2問／17問中	
	R 5 年度	国語	算数		
		11問／14問中	1問／16問中		
中学校	R 4 年度	国語	数学	理科	
		1問／14問中	0問／16問中	1問／21問中	
	R 5 年度	国語	数学	英語【聞・読・書】	英語【話】
		5問／15問中	6問／15問中	2問／17問中	0問／5問中

○昨年度との比較の視点から

- ・昨年度、小学校国語で無回答率が全国平均を上回った設問数が57%であったが、今年度はさらに79%と大幅に増加し、全教科の中でも最も多かった。
- ・中学校でも国語、数学において大幅に増加している。

○全国との比較の視点から

- ・小学校は、国語、算数合わせて12問中10問が全国と1.0ポイント未満での差であった。最大で3.3ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。
- ・中学校は、無解答率の割合は増加しているが、国語、数学、英語合せて13問中10問で全国と1.0ポイント未満での差であった。最大で2.1ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、国語において無解答率が10%を越えている設問が2問、算数で1問であった。3問中2問が記述式。1問が選択式であった。選択式は敬語の組み合わせを問う問題であった。
- ・中学校では、国語において無解答率が10%を超えている設問が2問、数学で6問、英語で9問（聞・読・書：4問、話：5問）であった。17問中8問が記述式。4問が短答式。残りの5問が口述式の設問であった。

【改善のための方策】

- ・どの教科も記述式に無解答率の高さが目立つ。また、今年度、実施した中学校英語の「話す」分野の設問（口述式）では、全てで無解答率が高かった。主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点にたち、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書いたり、発表したりすること、また友だちと意見を交流し、自分の考えを深めていくような取組を設定していくことが大切である。「甲府のたから」を参考に、なお一層の工夫と充実を図る必要がある。

令和5年度8月21日「学力向上フォーラム2023」資料

「令和5年度各種学力調査の結果の概要

～調査結果と問題分析を踏まえた授業改善の方向性について～」

調査結果を踏まえた授業改善の取組

問題作成の趣旨

◎各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善メッセージを発信



【国語】

- ・学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視

【算数・数学】

- ・学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視

【英語】

- ・学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「知識及び技能」を測ることに加え、それらをコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて活用できる「思考力、判断力、表現力等」を測ることを重視

☆取組のポイント

- ① 調査問題や自校の調査結果の分析から課題を明確にし、授業改善に生かす。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の工夫を推進する。
- ③ 校内研究・研修などを通じ、学校全体で、さらに小・中学校の連携によつて、課題や目指す方向性を共有し、組織的・継続的な取組を進める。

3 質問紙調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査の特徴

① 小学校【児童質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	3.2
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	3.9
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	4.2
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	5.1
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	7.1
16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	3.6
24	読書は好きですか	3.5
27	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	5.0
28	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	3.0
29	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「週3回以上」で比較	4.5
35	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	3.1
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	3.0
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	8.0
41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	3.9
43	国語の勉強は好きですか	6.8
47	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか	3.8
48	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか	3.1
55	英語の勉強は好きですか	6.5
57	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	5.0

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」で比較	-3.9
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「3時間以上」で比較	-3.5
25	今住んでいる地域の行事に参加していますか	-5.1

34	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	-3.5
国2	解答時間は十分でしたか（国語）	-13.2
算2	解答時間は十分でしたか（算数）	-4.8

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	5.2
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	3.6
8	人が困っているときは、進んで助けていますか	4.0
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	4.8
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	4.0
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか ※「週に1～3回以上」で比較	4.7
22	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） ※「101冊以上」で比較	4.5
24	読書は好きですか	6.9
26	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか ※「週4日以上」で比較	10.2
30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	5.7
32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	5.3
33	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「週3回以上」で比較	19.5
34	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	3.0
36	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	8.9
38	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	3.6
39	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	4.7
40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	4.8
42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	3.2
43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	5.4
44	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	10.8
45	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	7.6

46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	3.5
49	国語の授業の内容はよく分かりますか	3.3
51	行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書いていますか	4.6
52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか	5.1
54	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか	3.0
66	1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	4.2
67	1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	4.8
68	1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	9.7
69	1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	7.6
70	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	3.8
71	1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	4.8
72	1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	4.6
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全く回答しなかった」以外で比較	4.1
英1	今回の英語の問題では、まとまりのある文章を書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか ※「書く内容が思い浮かばなかった」以外で比較	5.3
話1	今回の英語の問題では、聞いたことについてまとまりのある内容を話す問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか ※「話す内容が思い浮かばなかった」・「聞いたことを理解出来なかった」以外で比較	3.4
話2	解答時間は十分でしたか（英語「話すこと」）	4.6

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」で比較	-3.0
27	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか ※「2時間以上」で比較	-11.2
55	数学の勉強は好きですか	-4.3

57	数学の授業の内容はよく分かりますか	-3.7
59	英語の勉強は好きですか	-3.6
63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	-3.4
数2	解答時間は十分でしたか（数学）	-4.1
英2	解答時間は十分でしたか（英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）	-3.8

③児童生徒質問紙調査について

今年度、児童生徒質問紙調査の設問数は、小学校 63、中学校 80 であった（昨年度は、小学校、中学校ともに 75）。国語の指導方法に関する質問や部活の日数に関する質問等が新たに付け加わっている。全国平均と比べて3ポイント以上、上回る設問が、小学校では 19、中学校で 37 あった。反対に3ポイント以上下回る設問が、小学校では 6、中学校で 8 あった。小学校 8 割、中学校では 7 割以上の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。コロナ禍で児童の不安も大きい中、丁寧に児童の学習、生活に寄り添う指導をしてきたことがうかがえる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」について、肯定的な回答が全国平均を 8 ポイント以上、上回っている。「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」についても、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っており、互いに認め合い、充実した学級での生活を送っていることがうかがえる。
- 「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」について、今回からの新設の質問であるが、肯定的な意見が 9 割を超え、全国平均も上回っている。コロナ禍でも、友達関係に対する満足感や日常生活における幸福感を抱いて生活できている様子がうかがえる。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。しかし、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」については、前者は 2 時間以上、後者は 3 時間以上の回答が全国平均を 3 ポイント以上下回っている。学習する内容についての自己決定は出来ているものの、学習時間はそれほど長くない様子がうかがえる。
- 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」については、週 3 回以上の比較で、全国平均を大きく上回っている。また、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」も全国平均を上回っており、一人

一台端末の普及と共に、児童にも端末を学習に使用する有効性が実感として定着していることがうかがえる。

- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」について、全国平均を大きく上回っている。また、「英語の勉強は好きですか」も全国平均を大きく上回り、外国語の学習を通して、国際的な興味・関心が育っていることがうかがえる。
- 国語の指導方法に関する質問では、「国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか」「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」について、全国平均を大きく上回った。また、「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか」「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」についても、全国平均を上回っており、主体的・対話的で深い学びの視点にもとづいた授業展開がなされていることがうかがえる。

<中学校>

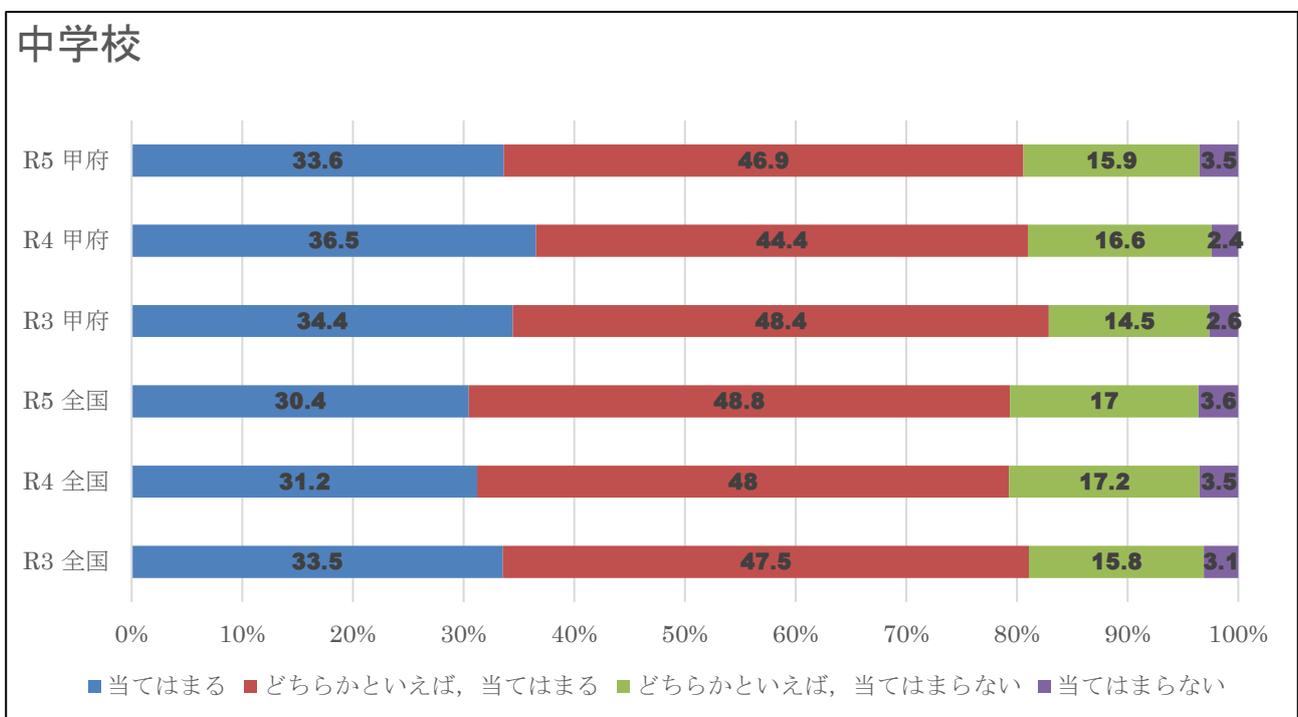
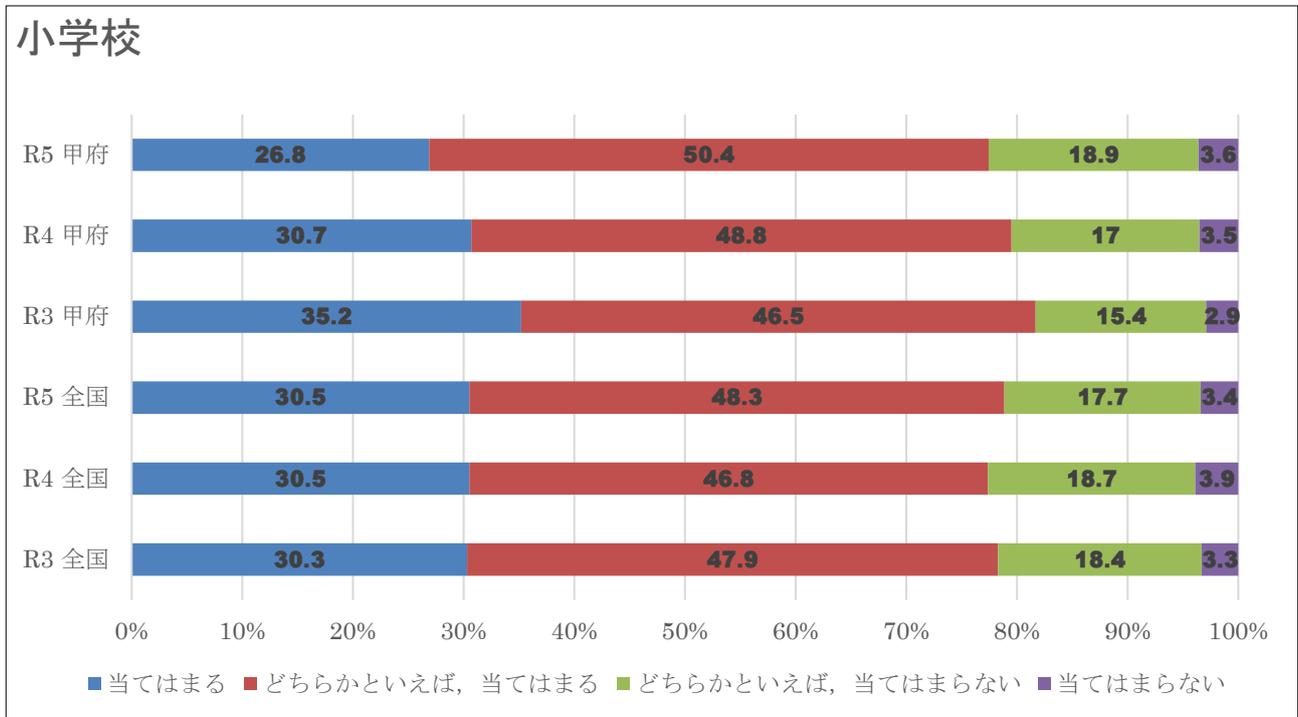
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」について、全国平均を大きく上回っている。
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についても肯定的な意見が9割を超え、全国平均を上回っている。また、「友達関係に満足していますか」も肯定的な意見が9割を超え、全国平均を上回っていることから、自分のことだけでなく、周りの人の気持ちを考え、相手を大切にする気持ちが生徒に育っていることがうかがえる。
- 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）」（「101冊以上」で比較）また、「読書は好きですか」について、肯定的な意見が全国平均を大きく上回っている。一時の読書離れから、最近では生徒の読書に対する興味・関心も高まっていることがうかがえる。
- 「普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか」（※「週4日以上」で比較）について、全国平均を大きく上回っている。また、「学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか」（※2時間以上で比較）は全国平均を大きく下回っており、ガイドラインに則って、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行っていることがうかがえる。
- 「1, 2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、週3回以上使用で比較し、全国平均を19.5ポイント上回っている。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」も9割6分以上が肯定的に回答し、全国平均を上回っている。小学校同様、中学校においても、授業中におけるICTの活用の浸透とともに、生徒もその有効性を実感していることがうかがえる。
- 「1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」「1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」「1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなど

を英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」等、英語の指導方法に関する質問については、肯定的な意見が全て全国平均を大きく上回っている。一方で、「英語の勉強は好きですか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」等、英語に関する興味・関心に関する項目は、全て全国平均を下回っている。学習内容、学習方法が難しくなるにつれて、小学校まで高かった英語に関する興味・関心が低下していることがうかがえる。

- 「1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「1，2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「1，2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、全国平均を大きく上回っている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげた取組が、着実に行われていることがうかがえる。

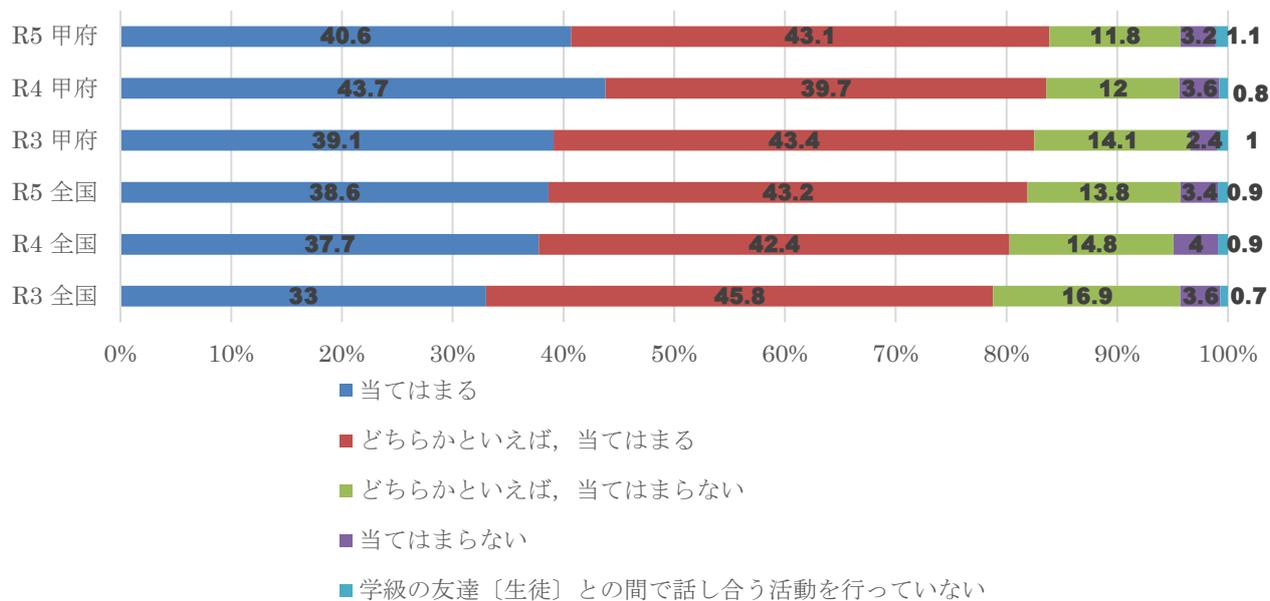
☆児童生徒質問紙のうち教育活動①「主体的・対話的で深い学び」に関わる資料

授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

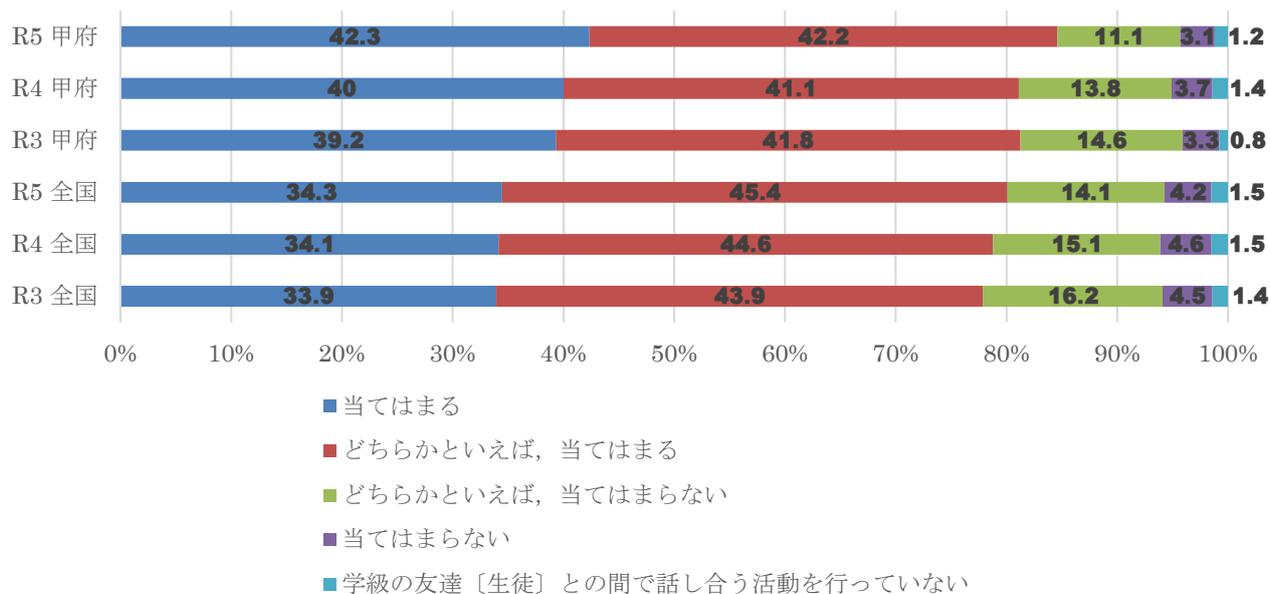


学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

小学校

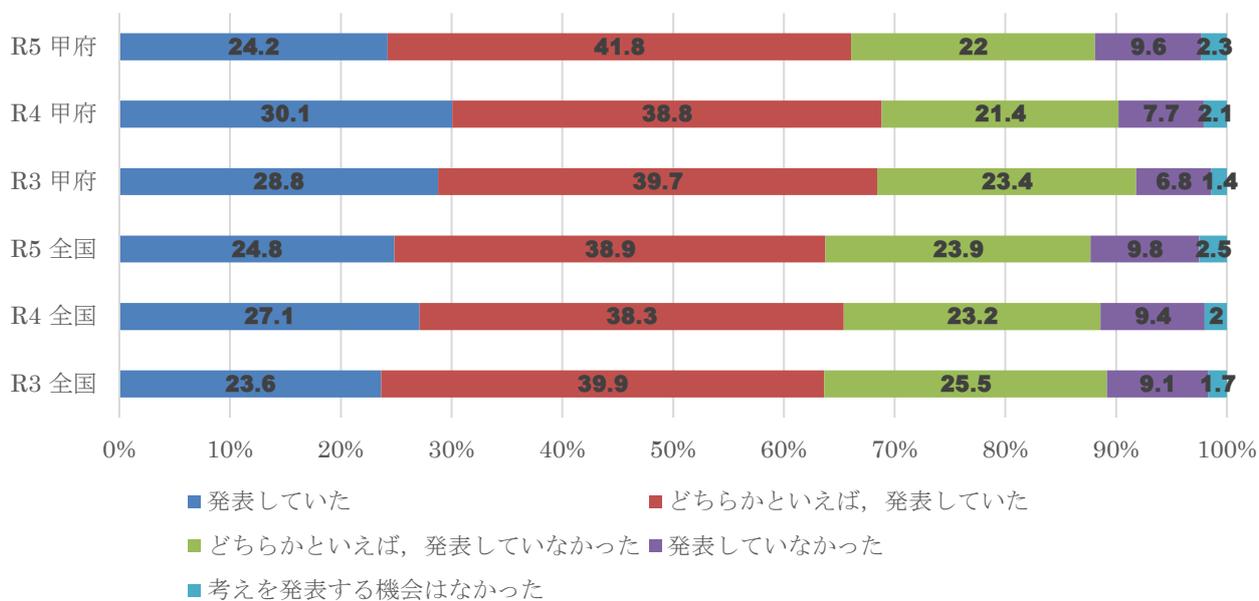


中学校

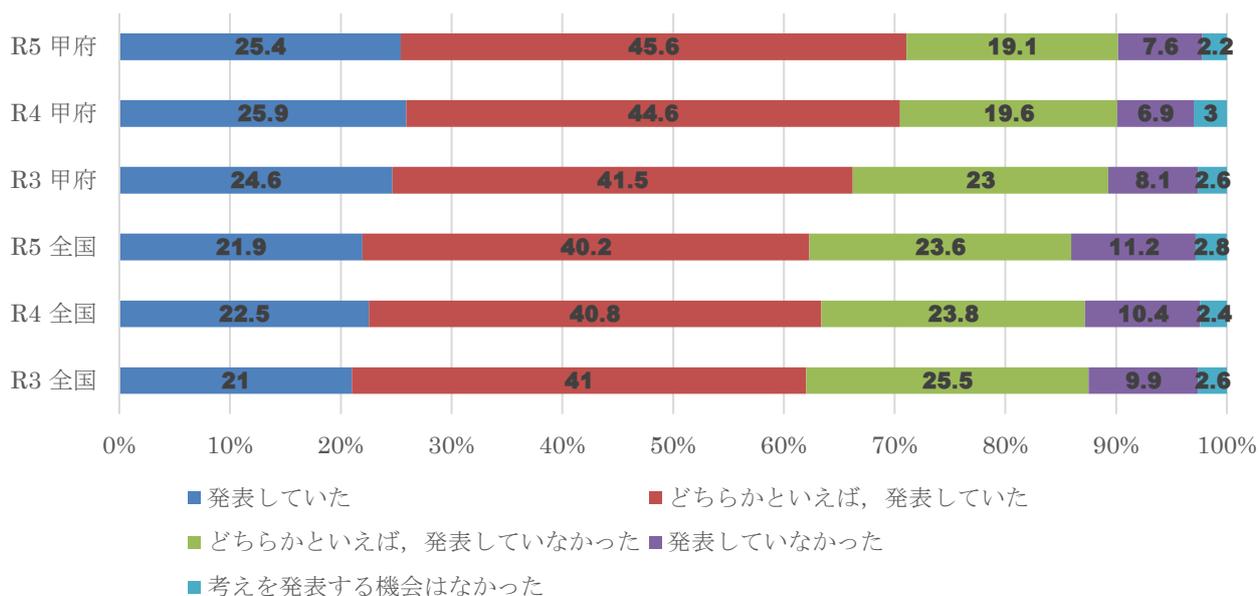


授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学校

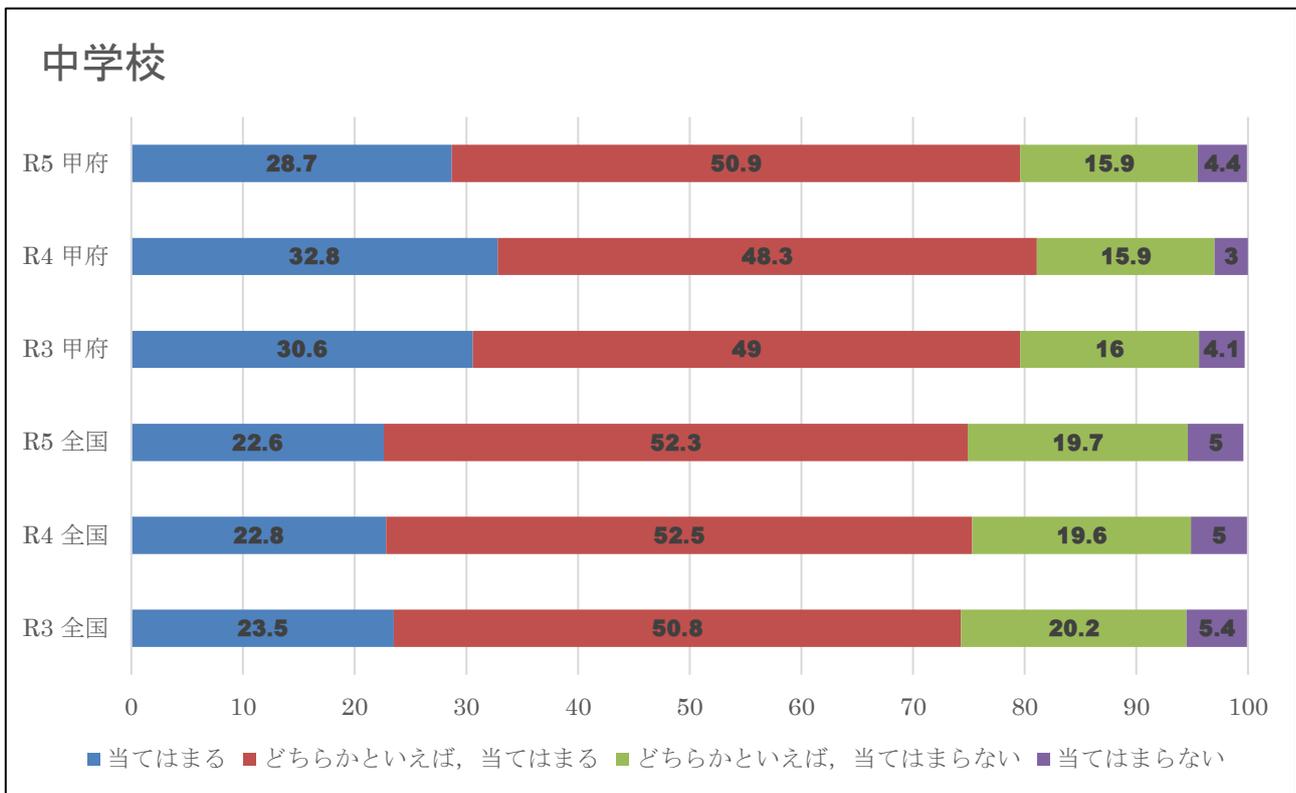
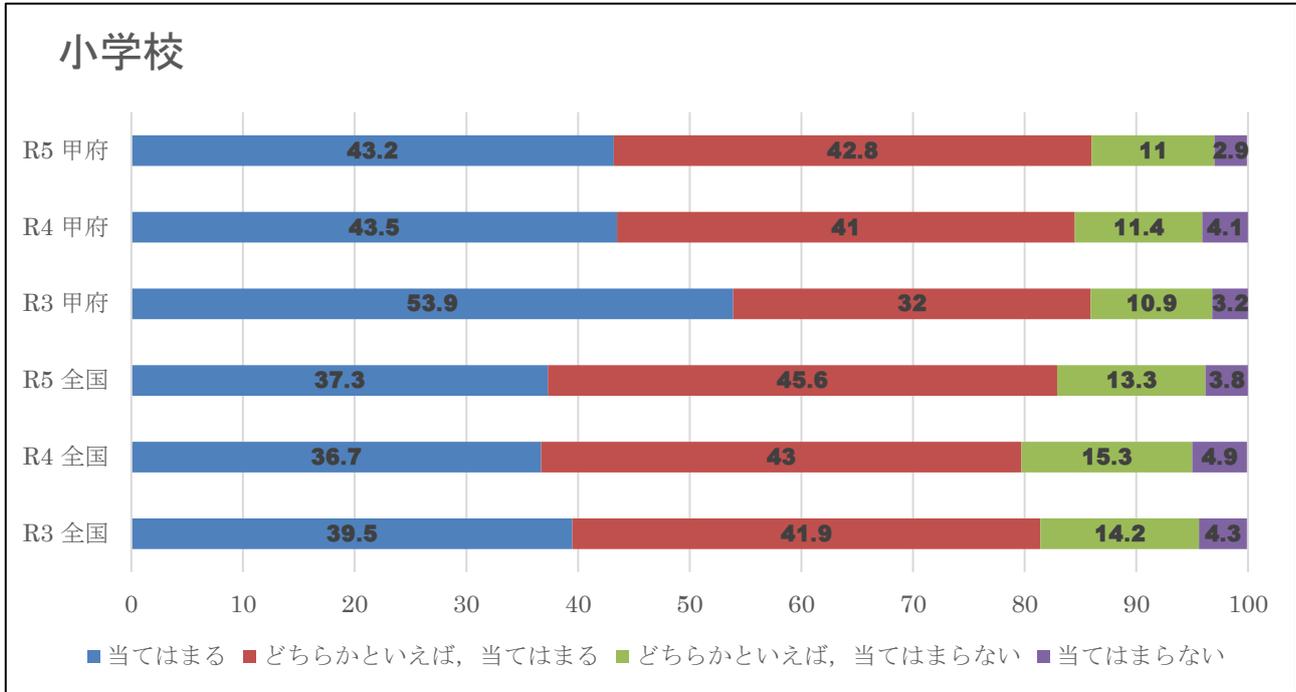


中学校



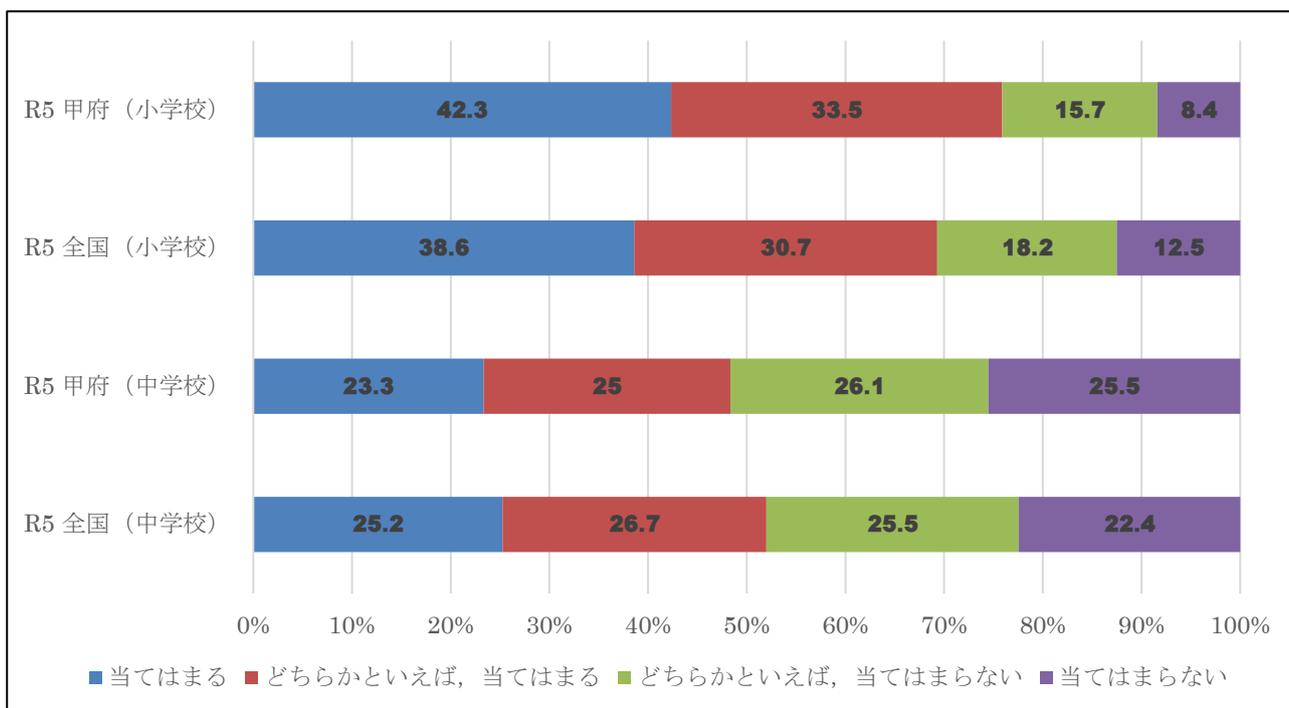
☆児童生徒質問紙のうち教育活動②「個別最適な学び」に関わる資料

5年生まで【1, 2年生のとき】に受けた授業は、自分にあった教え方, 教材, 学習時間などになっていましたか
 ※【 】内は中学校の質問

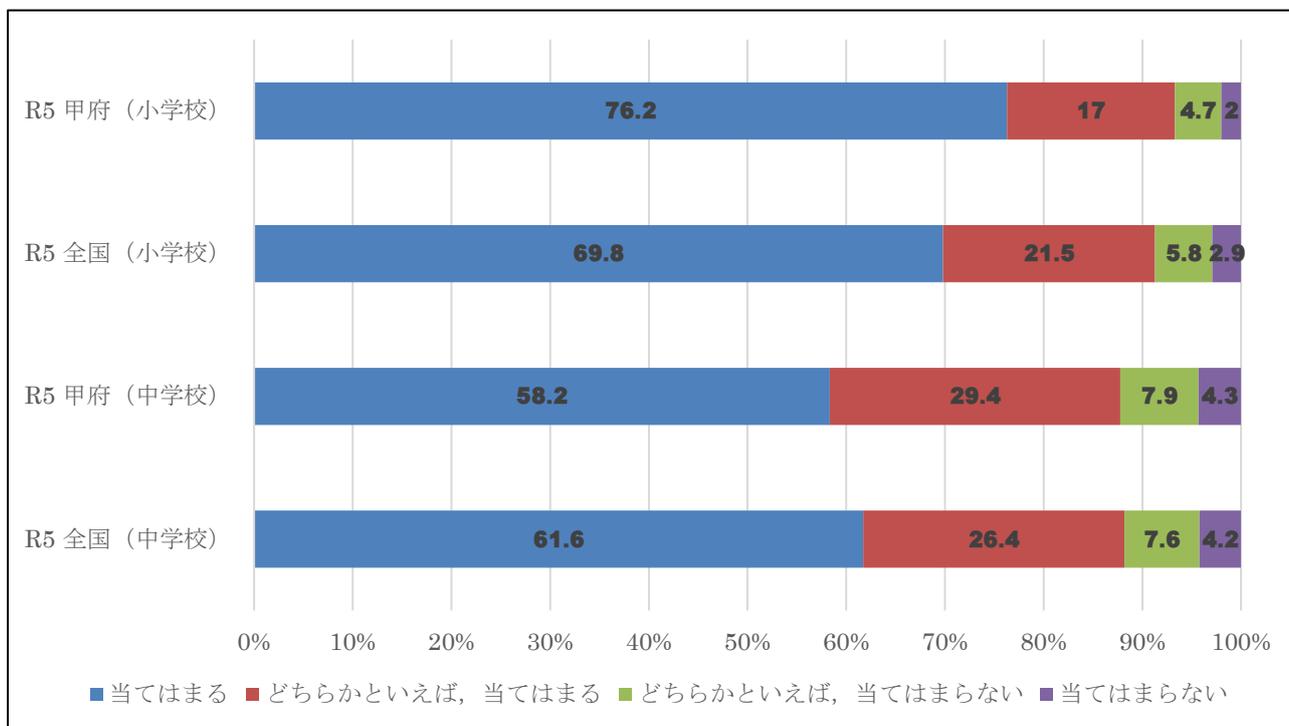


☆児童生徒質問紙のうち「英語」に関わる資料

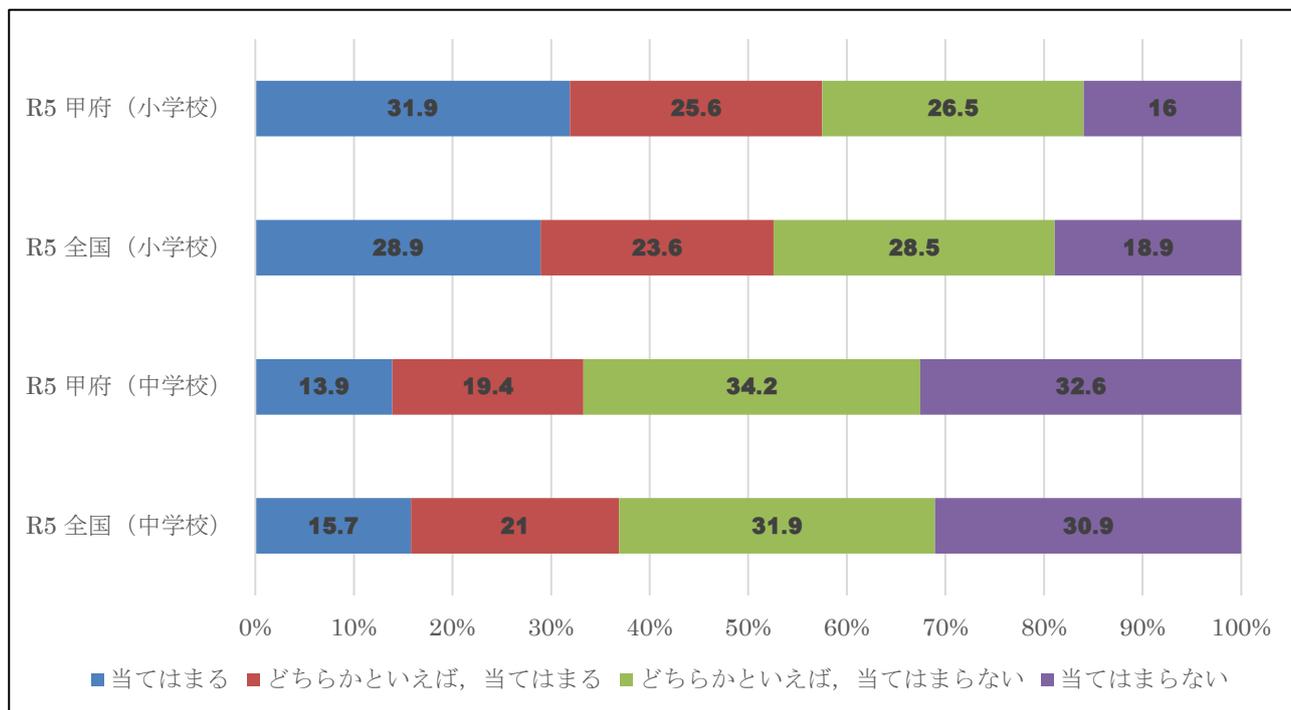
英語の勉強は好きですか



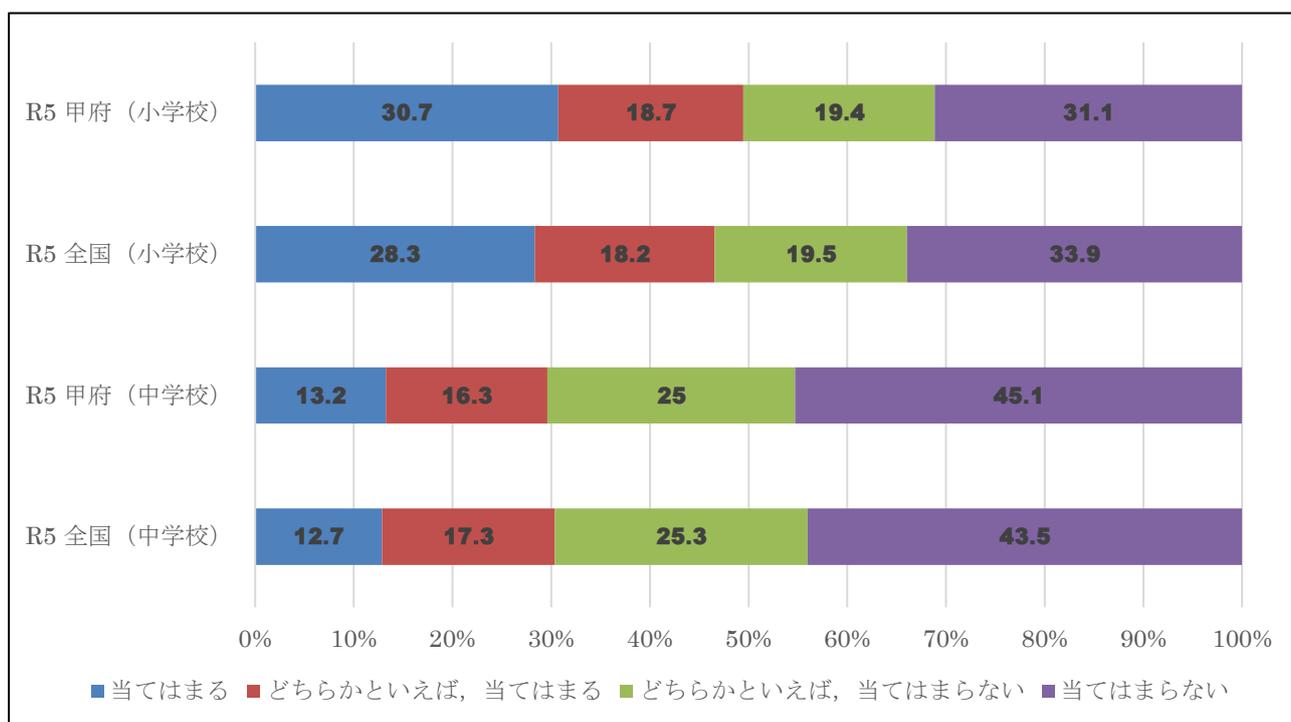
英語の勉強は大切だと思いますか



将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか



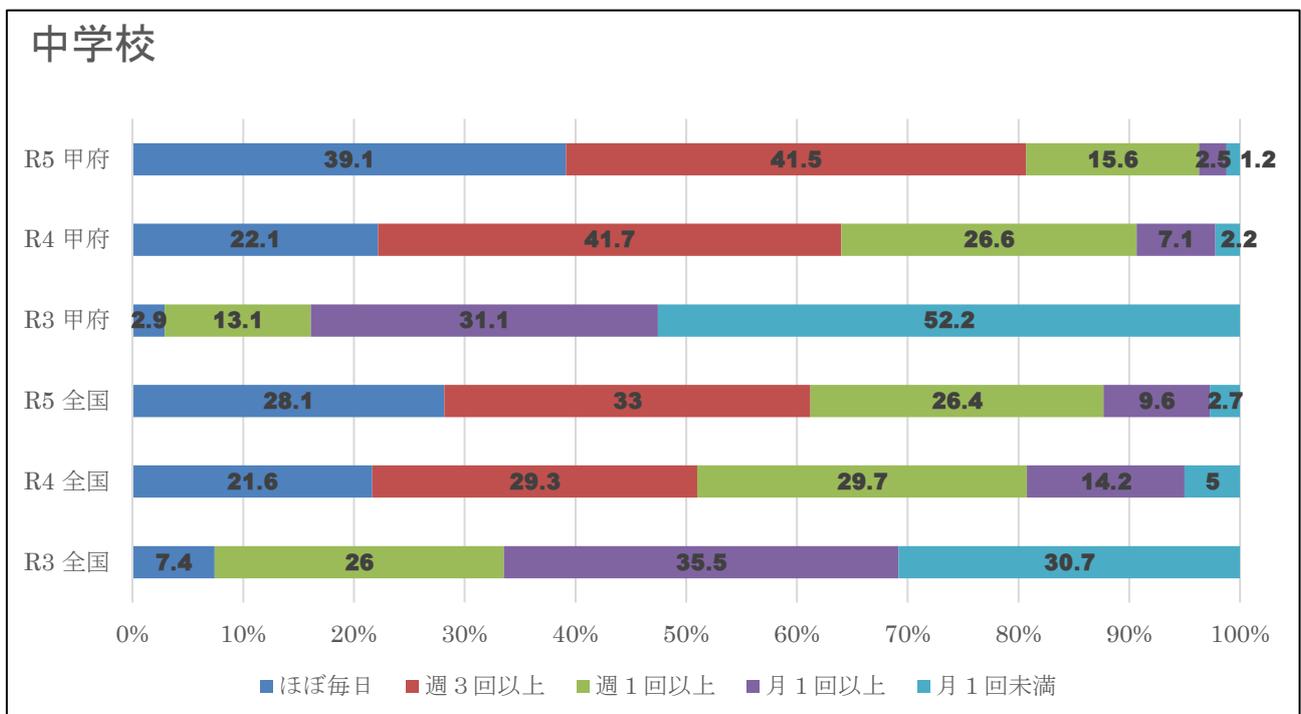
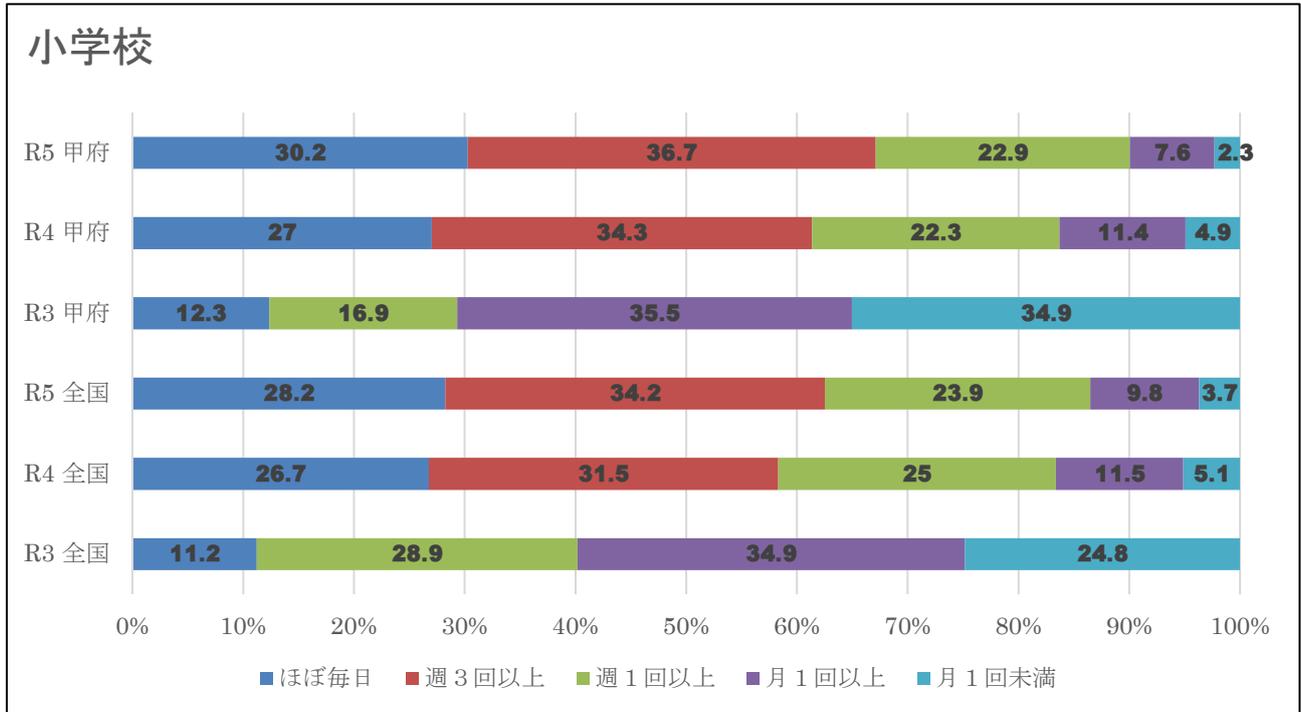
これまで、学校の授業【やそのための学習】以外で、【日常的に】英語を使う機会が【十分に】ありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどの ICT 機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）



☆児童生徒質問紙のうち「ICT」に関わる資料

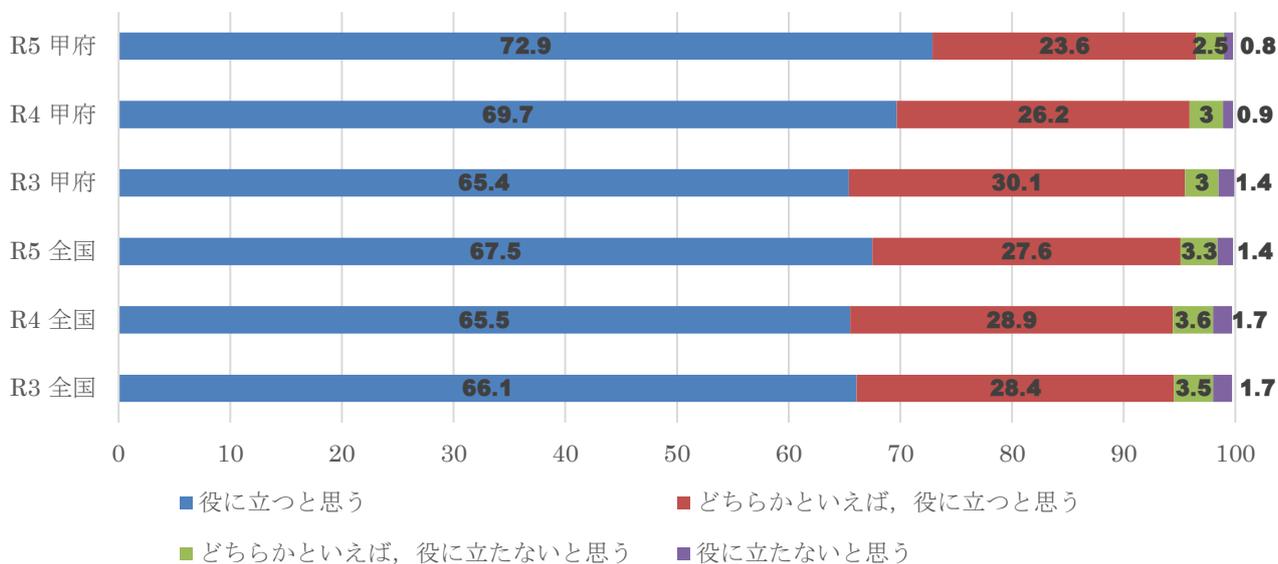
5年生まで【1, 2年生】に受けた授業で, PC・タブレットなどの ICT 機器を, どの程度使用しましたか

※R3は, 「週3回以上」の選択肢はなかったため, その回答をした児童生徒はいない

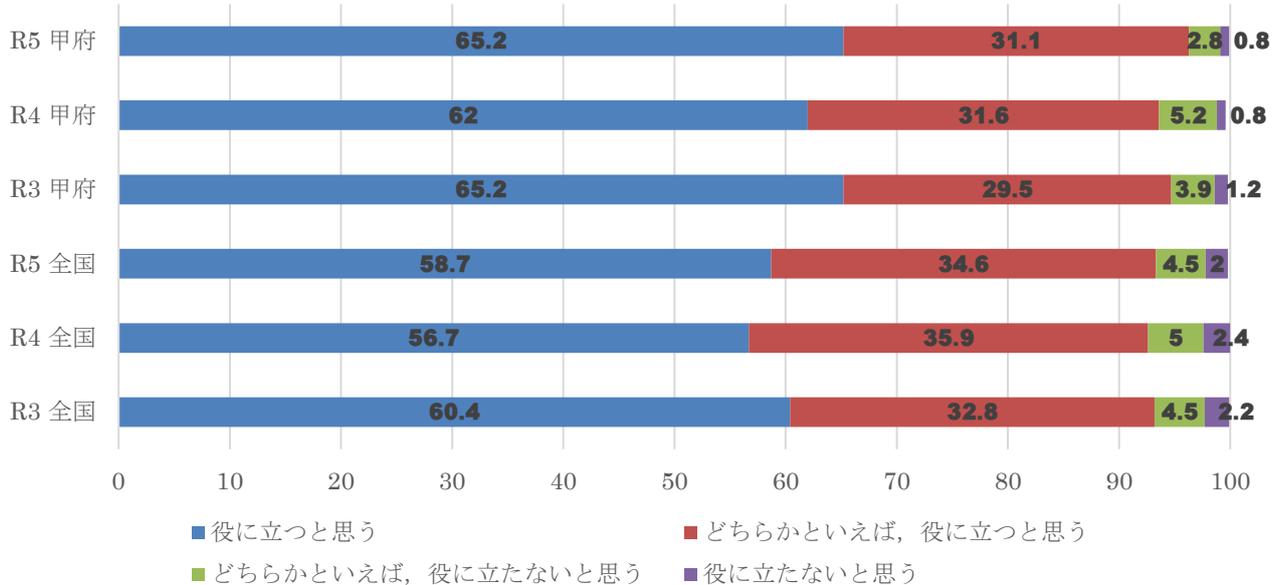


学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

小学校

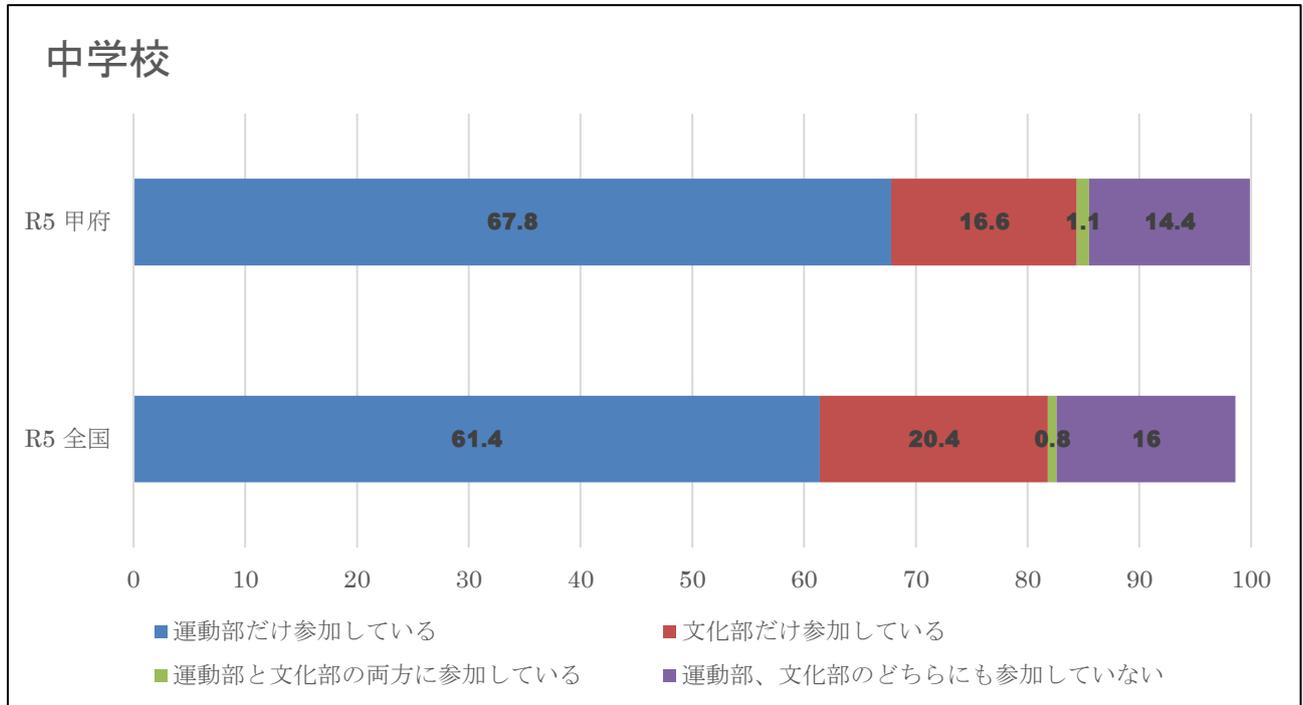


中学校

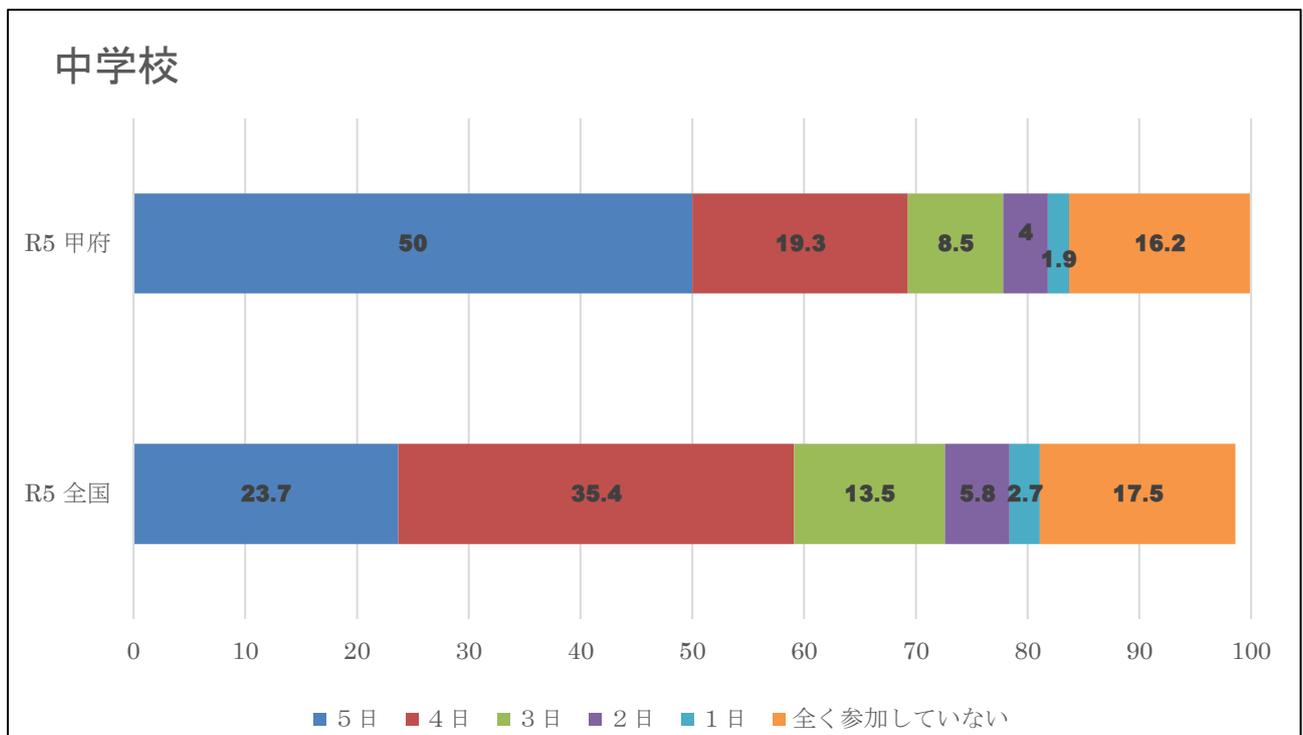


☆児童生徒質問紙のうち「部活」に関わる資料

学校の部活に参加していますか

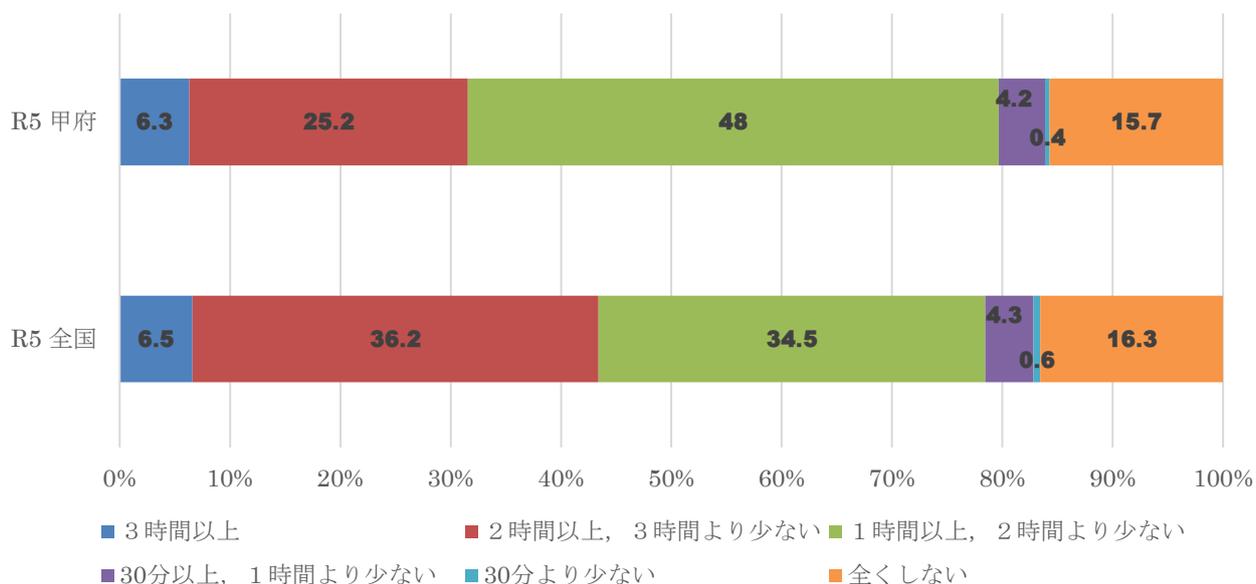


普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活に参加していますか



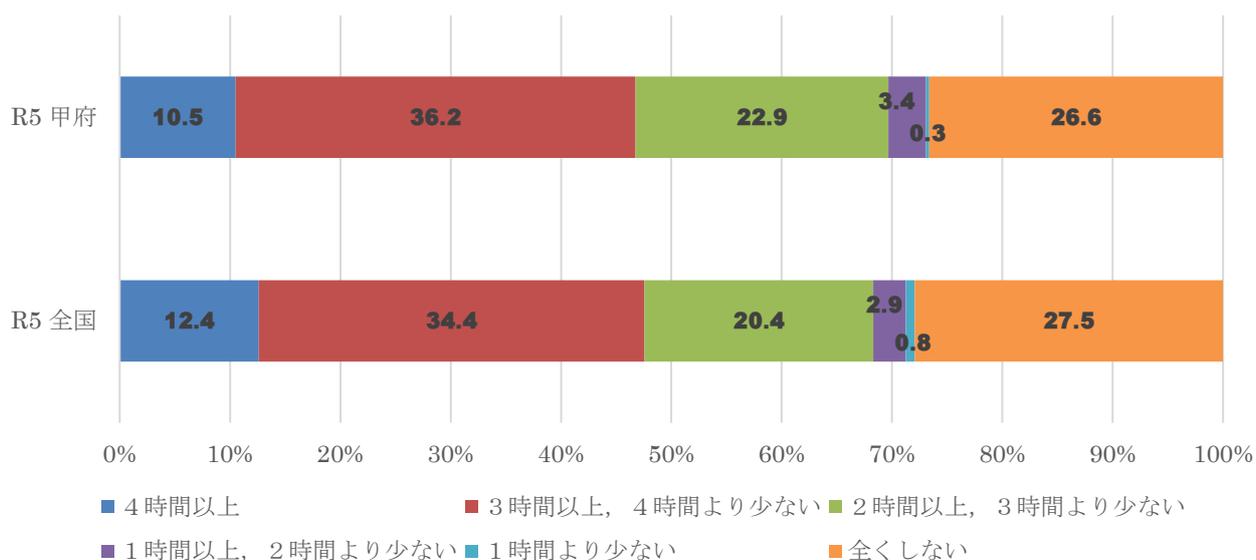
学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか

中学校



学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか

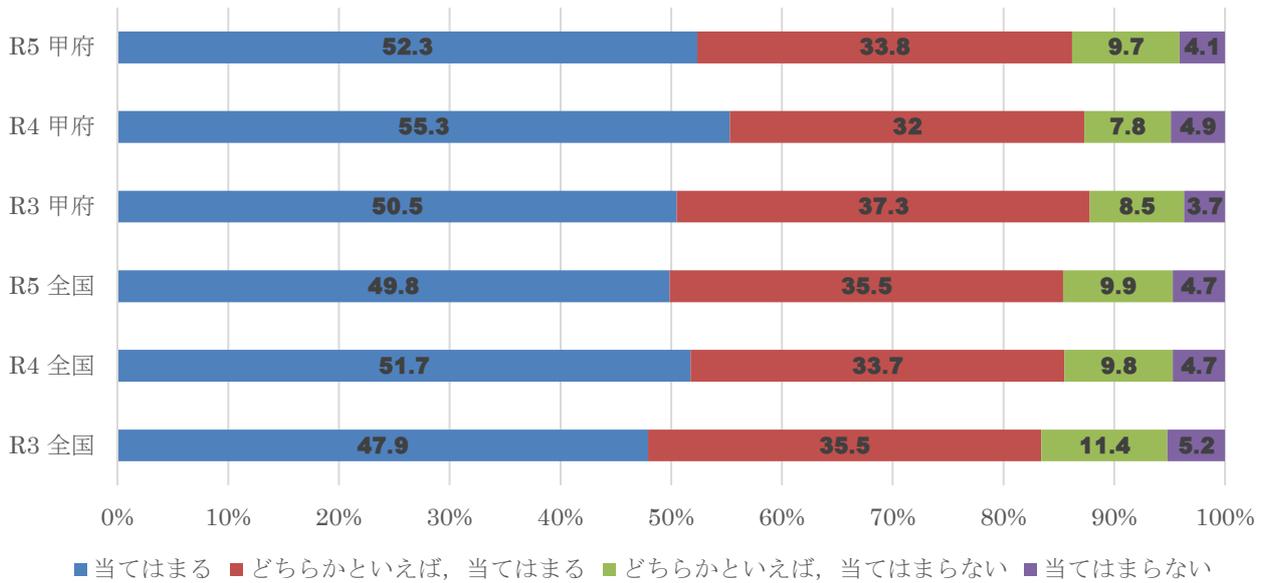
中学校



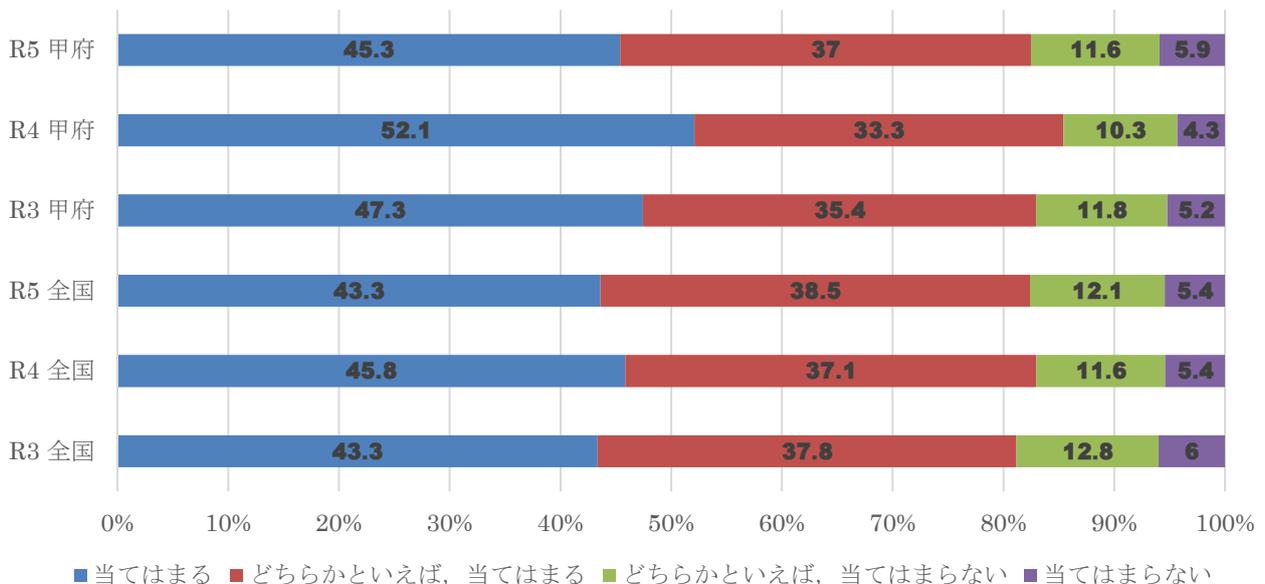
☆児童生徒質問紙のうち「その他」の資料

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校

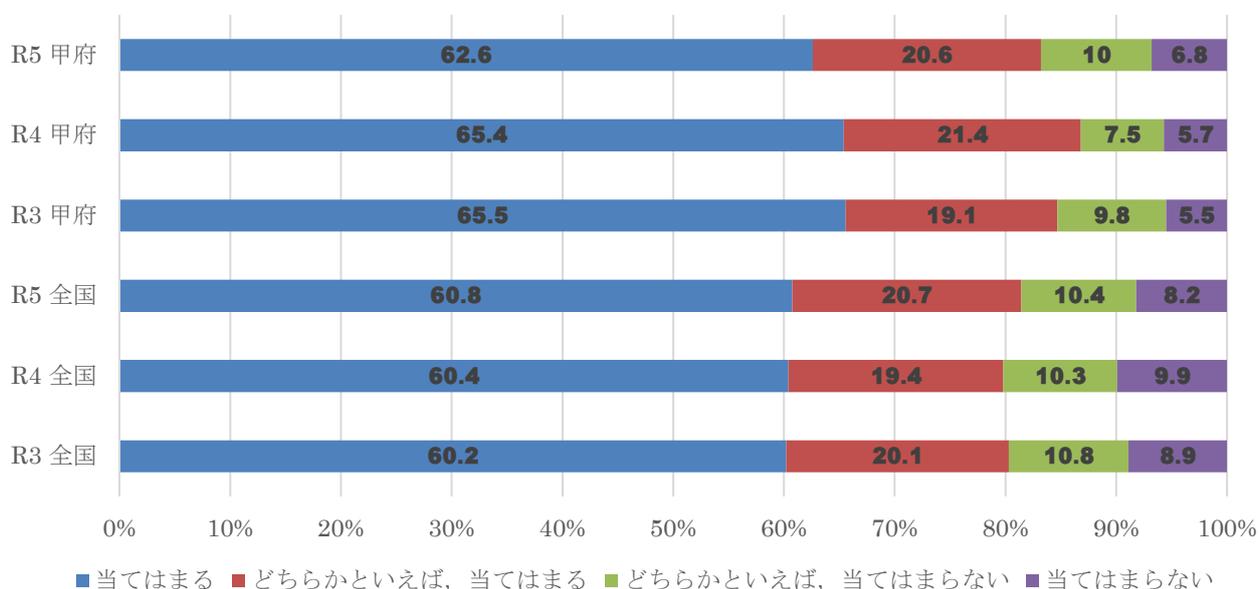


中学校

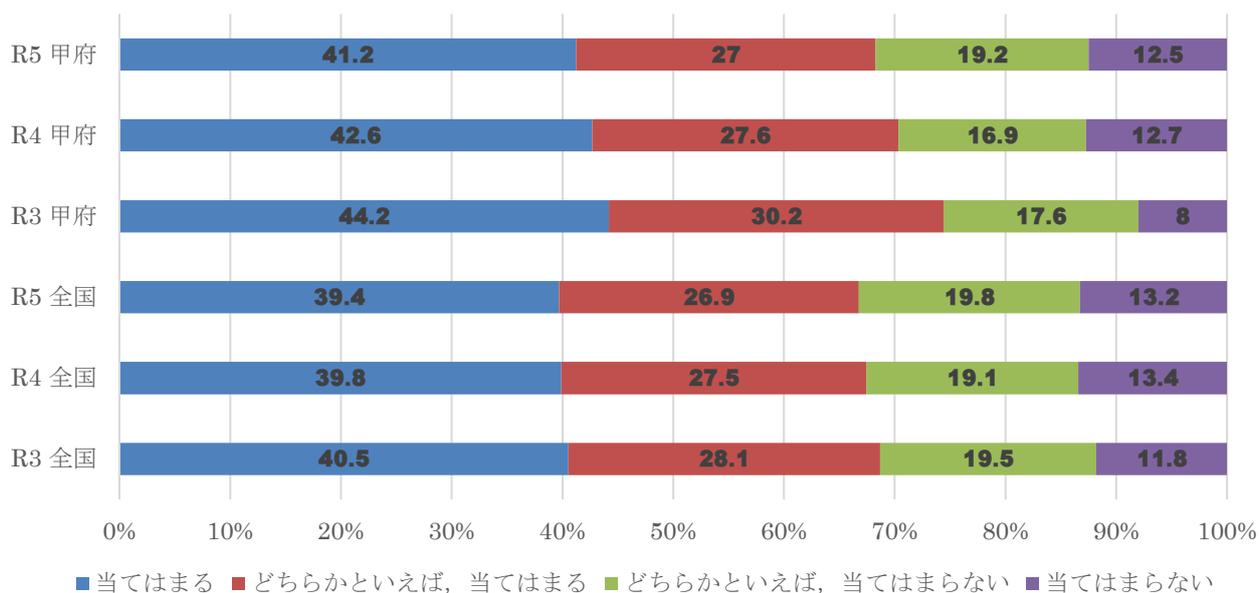


将来の夢や目標を持っていますか

小学校

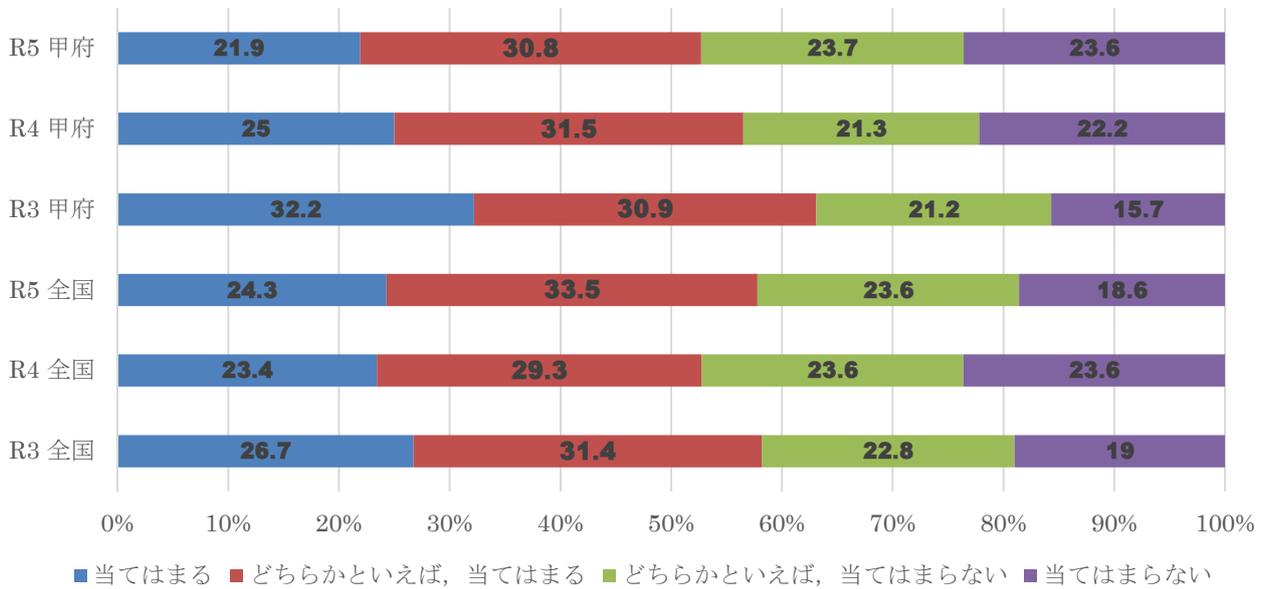


中学校

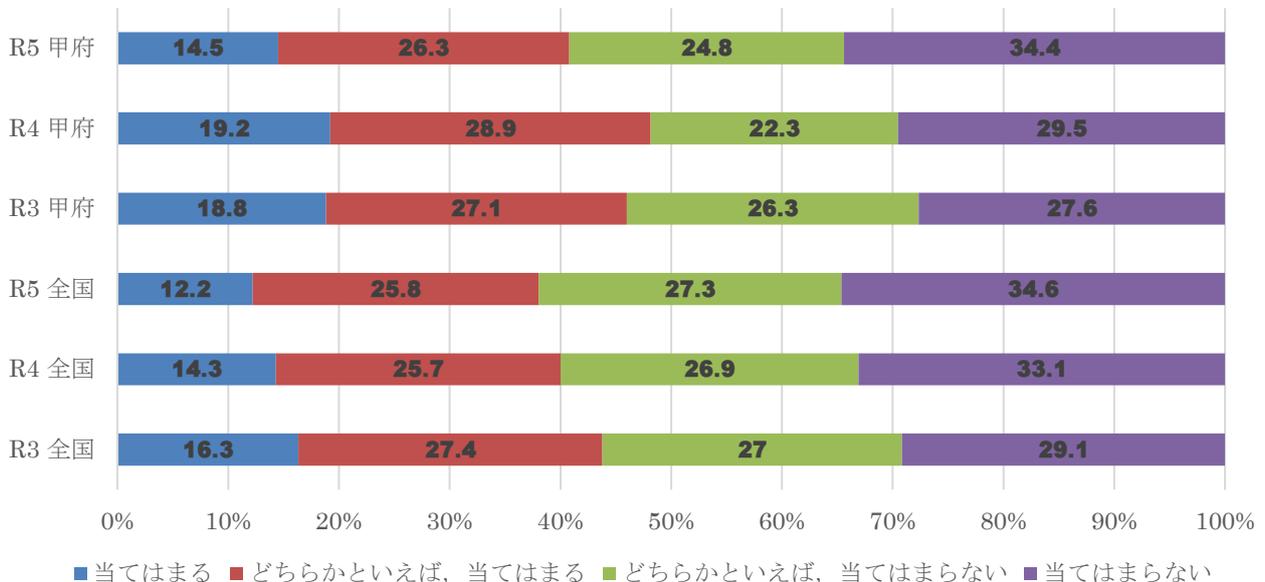


今住んでいる地域の行事に参加していますか

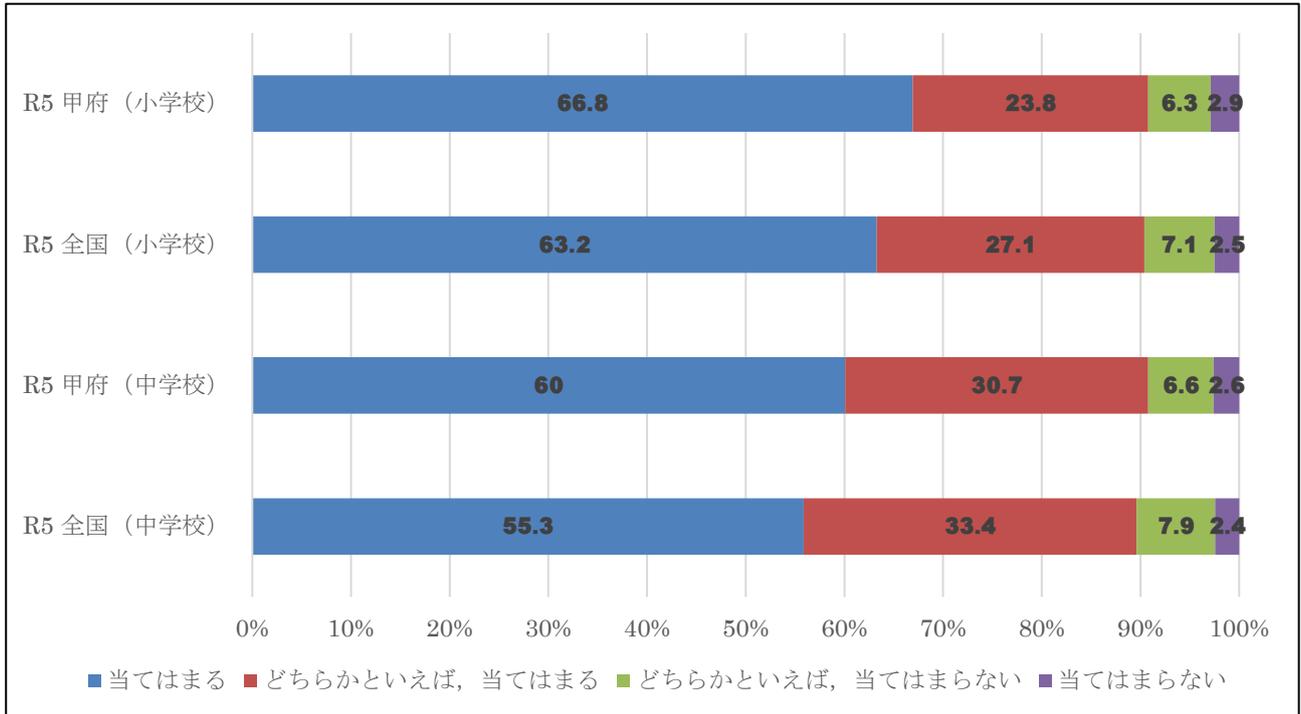
小学校



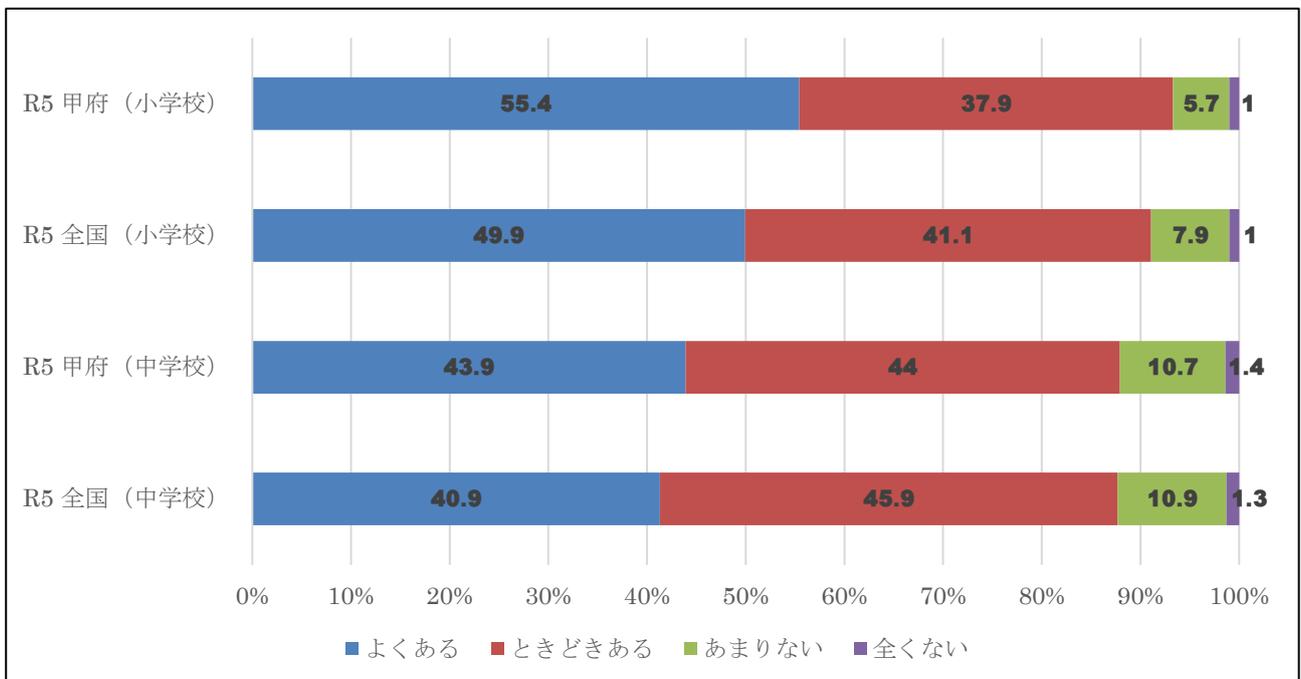
中学校



友達関係に満足していますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



(2) 学校質問紙調査の特徴

△調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

(全国平均：全国平均との比較)

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>100.0</u> % (86.5% : +13.5)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>100.0</u> % (98.6% : + 1.4)

△調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>100.0</u> % (93.1% : + 6.9)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>100.0</u> % (90.9% : + 9.1)

△調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100.0</u> % (88.9% : +11.1)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	91.7 % (88.0% : + 3.7)

△児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

〔小学校〕	「毎日」または「時々」持ち帰り利用させている	96.0 % (81.3% : +14.7)
〔中学校〕	「毎日」または「時々」持ち帰り利用させている	91.6 % (76.9% : +14.7)

▼教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

〔小学校〕	「ある」「どちらかといえば、ある」	<u>100.0</u> % (95.9% : + 4.1)
〔中学校〕	「ある」「どちらかといえば、ある」	75.0 % (91.5% : -16.5)

▼前年度までに、近隣等の中学校【小学校】と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>48.0</u> % (58.2% : -10.2)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	<u>50.0</u> % (67.3% : -17.3)

▼コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

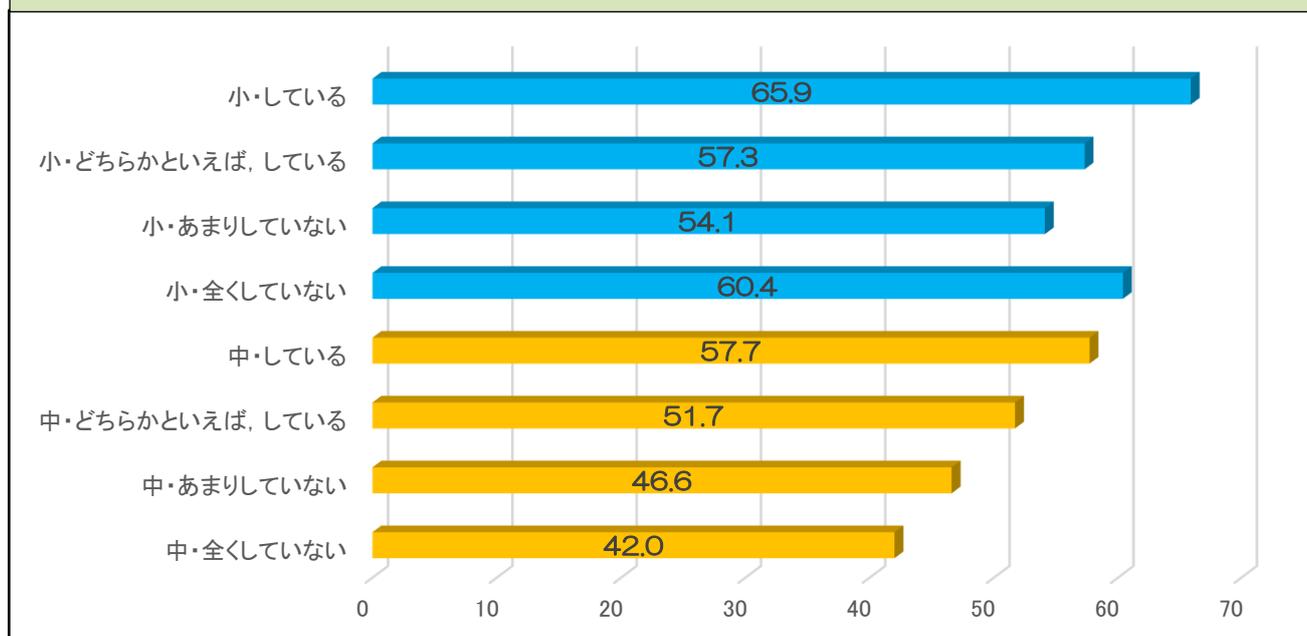
〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	88.0 % (86.1% : + 1.9)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	50.0 % (79.3% : -29.3)

資料 1 平均正答率と質問紙調査の相関関係

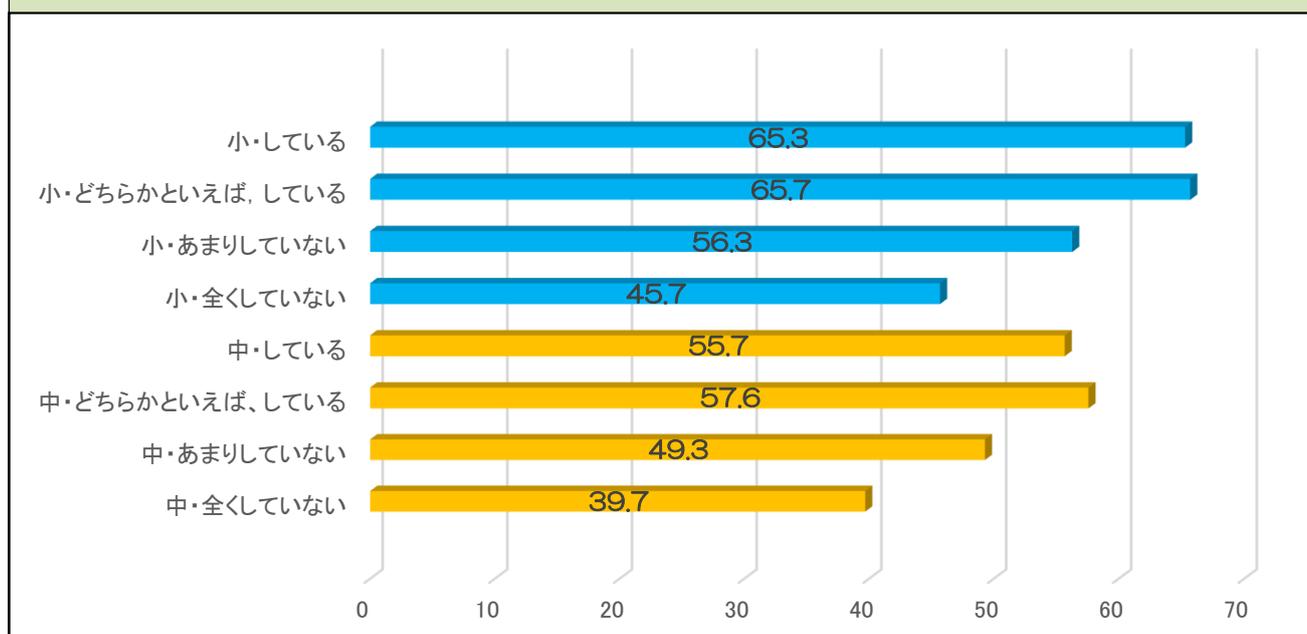
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語、算数・数学、英語の平均正答率の合計を小学校は2で中学校は3でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<基本的生活習慣等>

朝食を毎日食べていますか

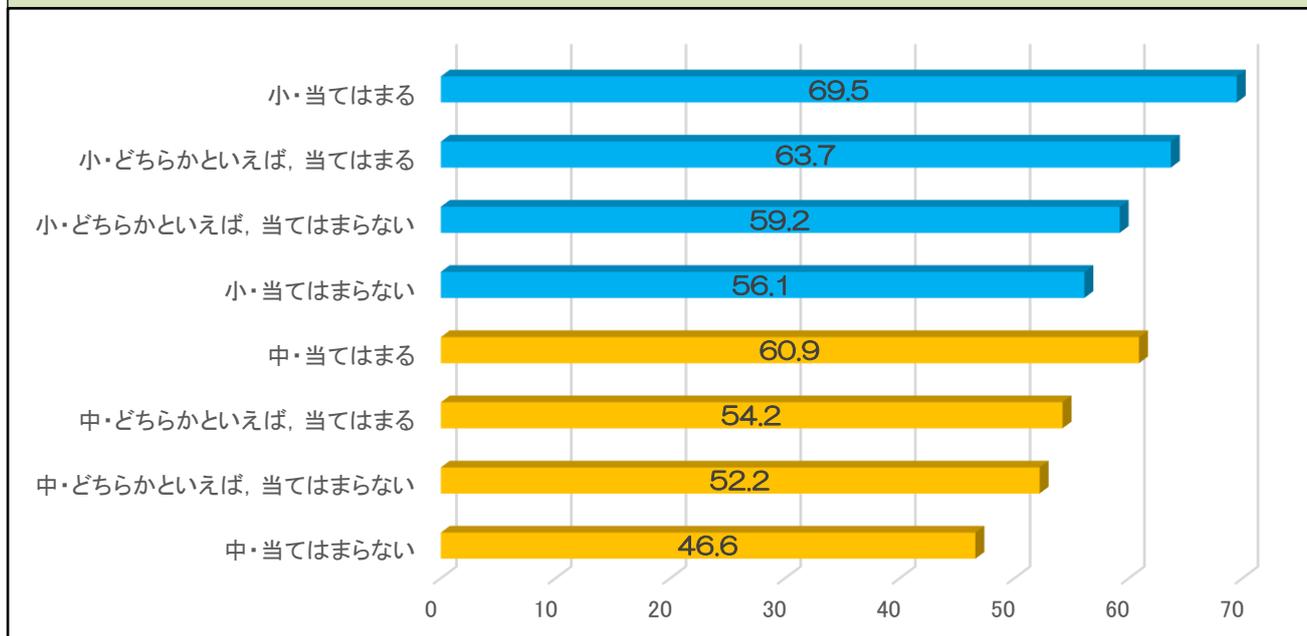


毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

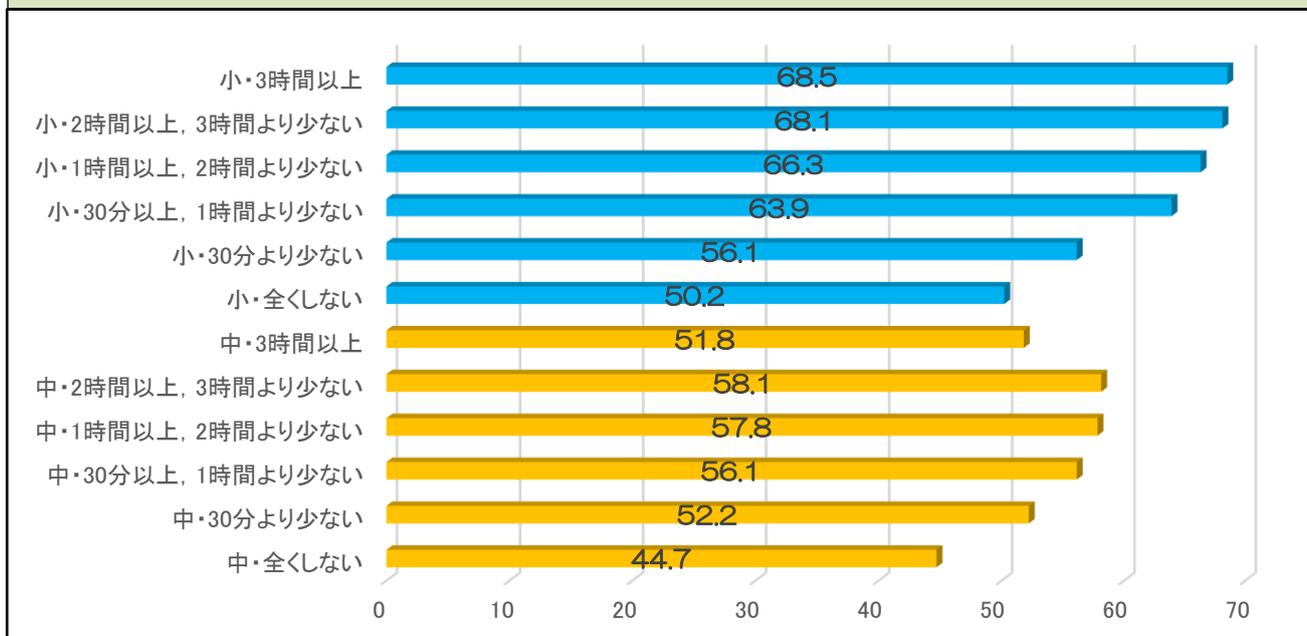


<学習習慣, 学習環境等>

読書は好きですか

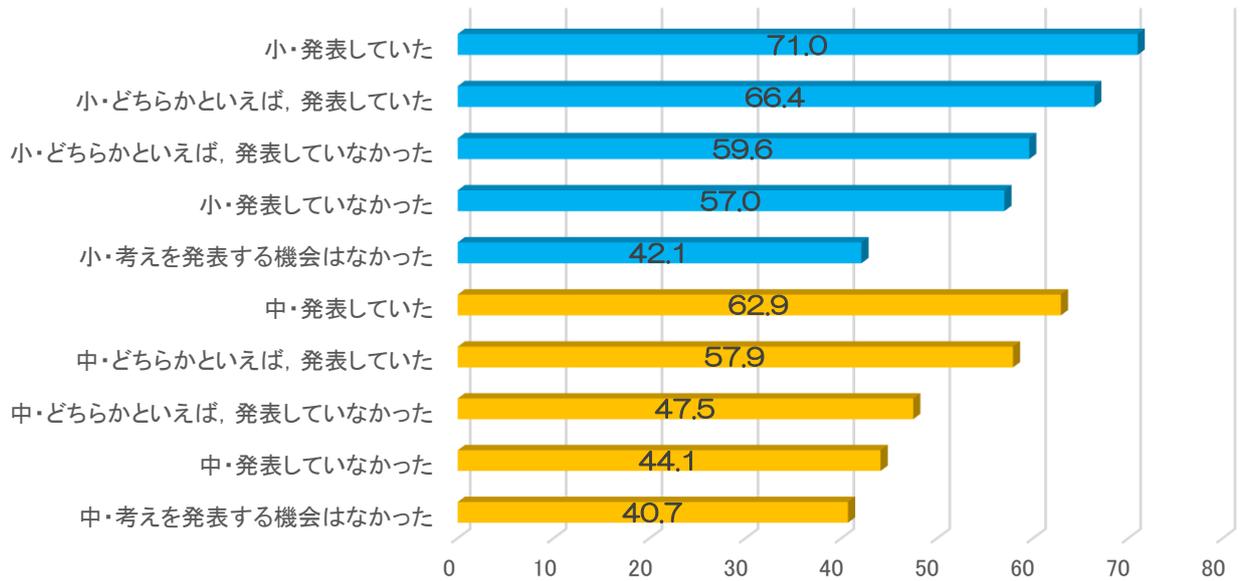


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

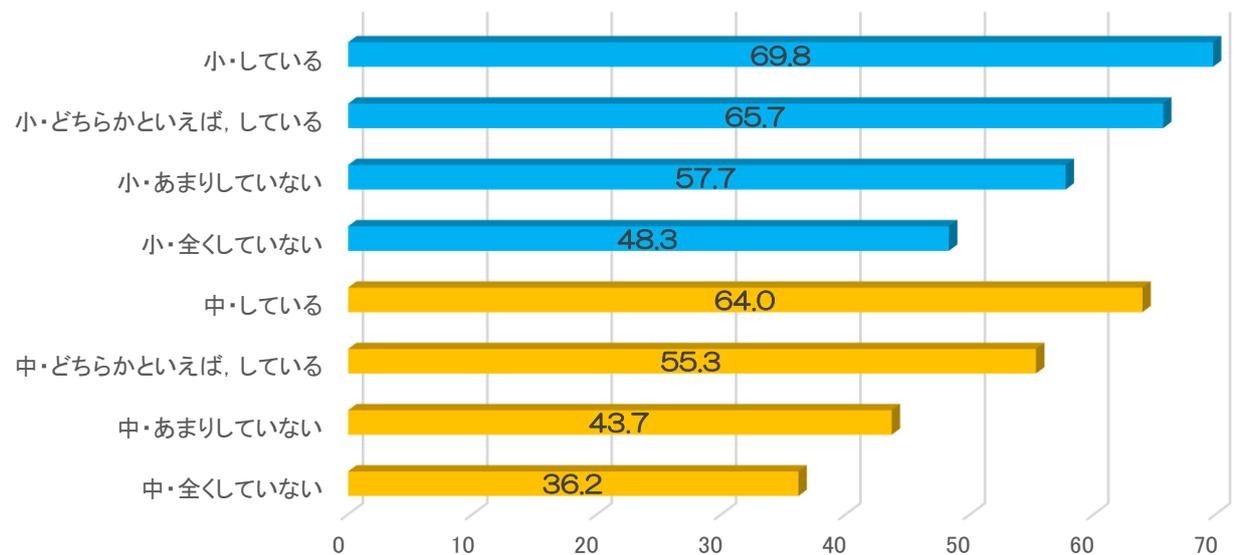


＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善・個別最適な学びに関する取組状況＞

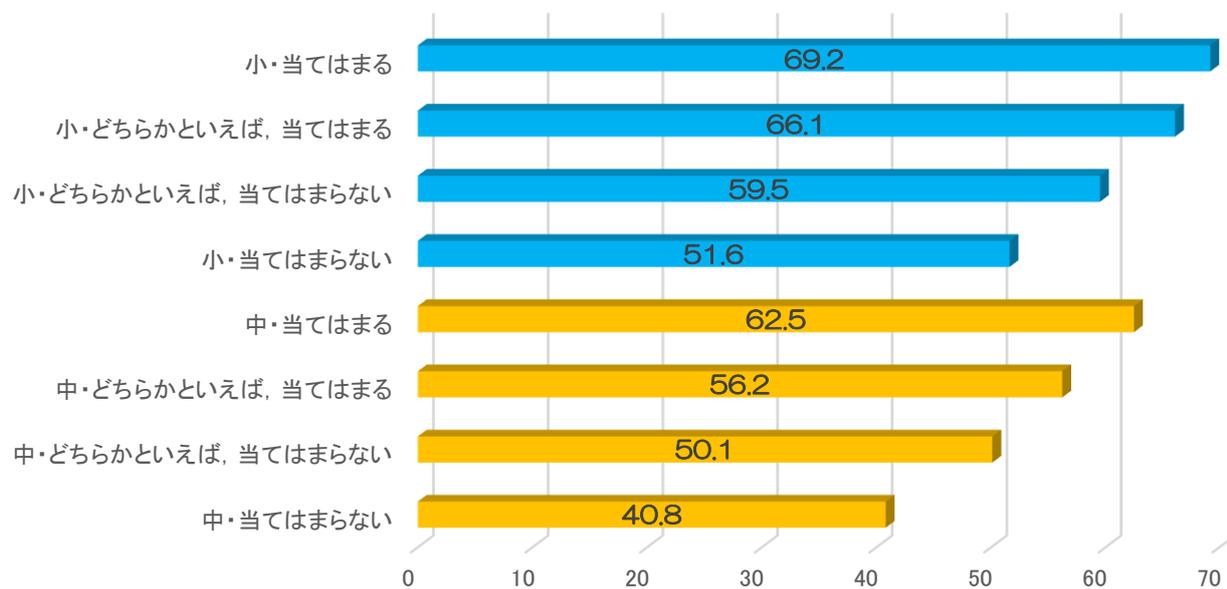
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



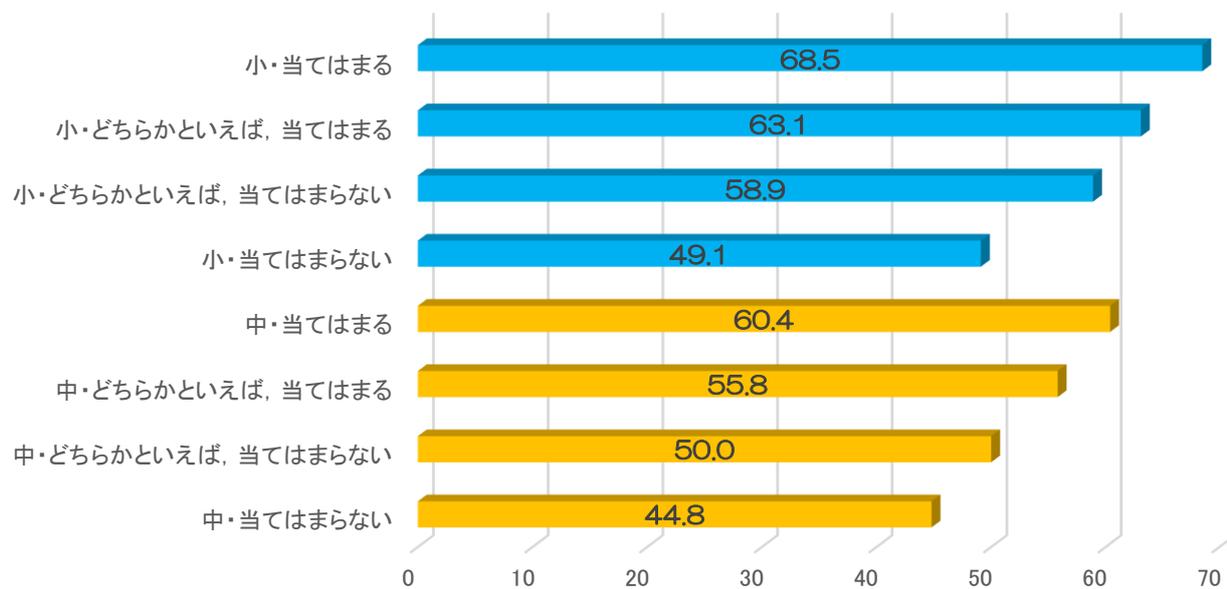
昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



昨年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

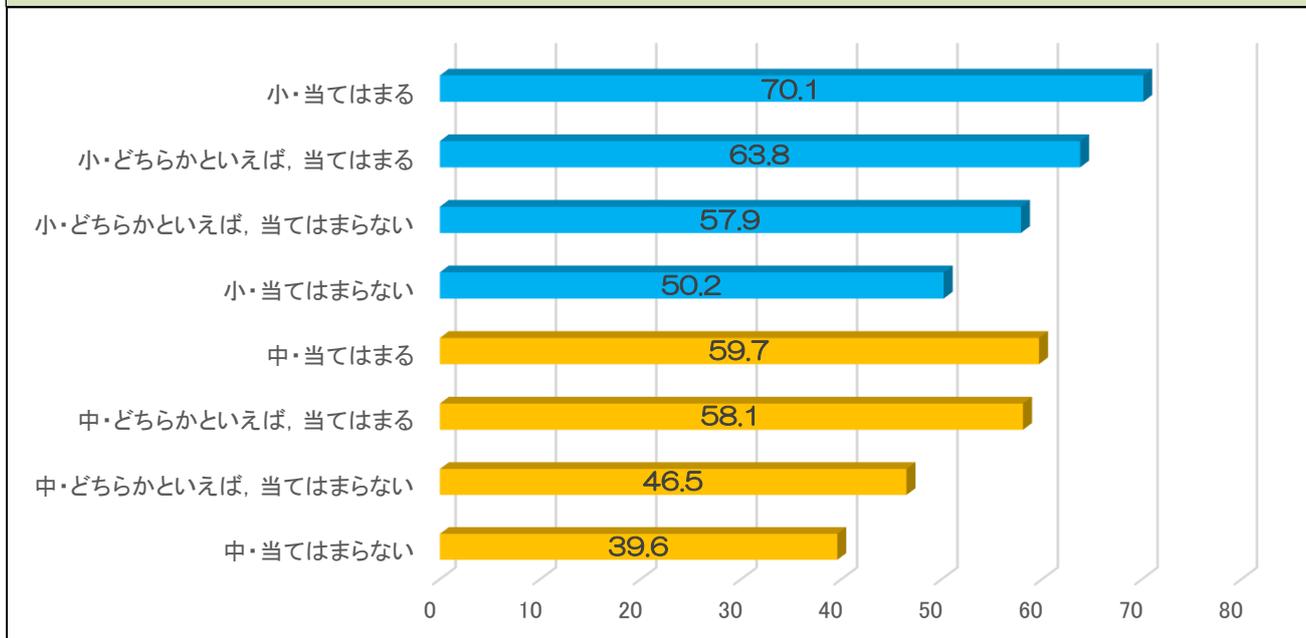


昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

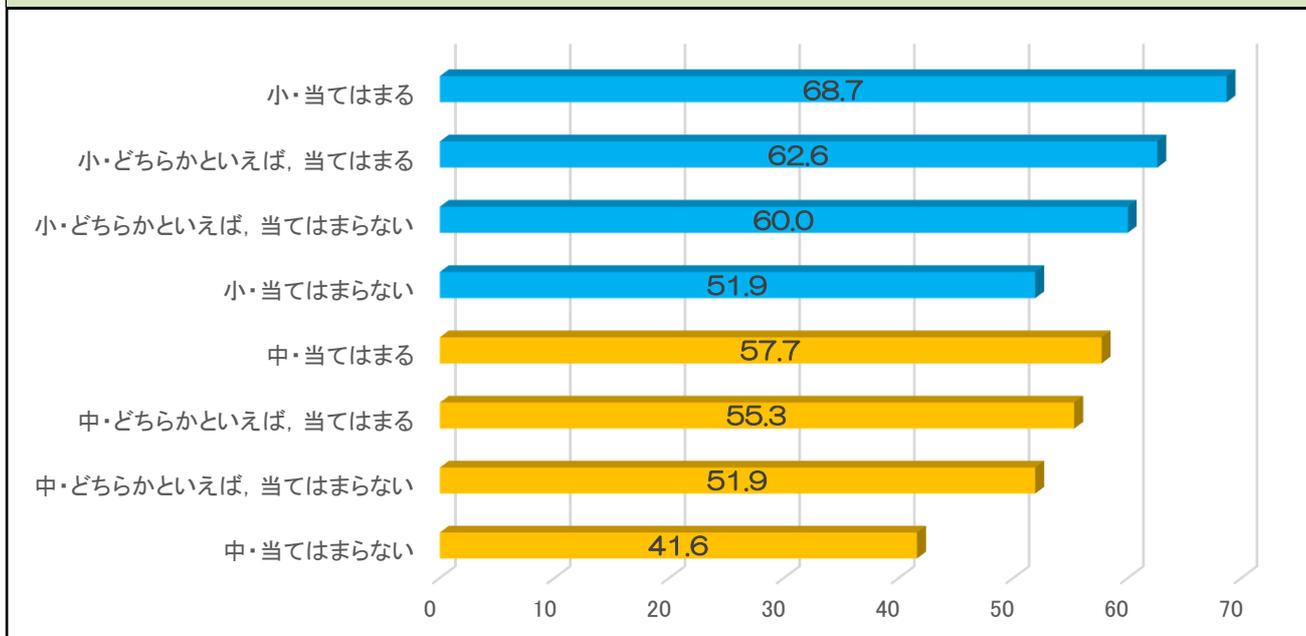


<総合的な学習の時間、学級活動>

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



資料2 令和5年度甲府市学校教育指導重点に関わって

令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

〈肯定的な回答について〉

* 国・県両方を上回っている（または同じ）…◎

* 国もしくは県を上回っている（または同じ）…○

* 国・県両方を下回っている …△

☆重点項目に関わる設問の回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

将来の仕事や夢について考える指導の実施 〈学校質問紙 No.11〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
各教科の教育目標や内容の相互関連をいかした教育課程の作成 〈学校質問紙 No.18〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を下回る	△
特別支援教育への理解・特性に応じた指導の工夫 〈学校質問紙 小No.66 中No.74〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を上回る	◎

②確かな学力の育成

習得・活用・探求の学習過程を見通した指導の工夫 〈学校質問紙 No.34〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△
平日の読書時間（1時間以上） 〈児童生徒質問紙 No.20〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
学級活動における一人一人の児童生徒が意思決定できる指導の工夫 〈学校質問紙 No.39〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
特別の教科 道徳における児童生徒が自ら考え、話し合うような指導の工夫 〈学校質問紙 No.40〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を上回る	◎
一人一台端末を活用した授業の頻度（週3回以上） 〈学校質問紙 小No.55 中No.63〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
家庭学習の方法等の児童生徒への教授 〈学校質問紙 小No.76 中No.84〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○

③「思い遣る心」を育む生徒指導の推進の育成

子どもの良い点や可能性を認め、褒める取組 〈学校質問紙 No.13〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
人が困っているときは、進んで助ける 〈児童生徒質問紙 No.8〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○

いじめは、どんな理由があってもいけないと思う 〈児童生徒質問紙 No.9〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
困りごとや不安を学校の大人に相談できる 〈児童生徒質問紙 No.10〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
人の役に立つ人間になりたい 〈児童生徒質問紙 No.11〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎

④健康・体力の向上

朝食を毎日食べる 〈児童生徒質問紙 No.1〉	小学校：国を上回る・県を下回る	○
	中学校：国・県を下回る	△
毎日、同じくらいの時刻に寝ている 〈児童生徒質問紙 No.2〉	小学校：国を上回る・県を下回る	○
	中学校：国を上回る・県を下回る	○
毎日、同じくらいの時刻に起きている 〈児童生徒質問紙 No.3〉	小学校：国を上回る・県と同じ	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○

⑤信頼される学校づくりの推進

家庭や地域との教育課程の趣旨の共有 〈学校質問紙 小No.71 中No.79〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△
学校、保護者、地域による協働活動の取組 〈学校質問紙 小No.72 中80〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△
CSなどの取組をとおした保護者や地域との相互理解 〈学校質問紙 小No.74 中No.82〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△

<引用・参考資料>

- ・「小学校学習指導要領」（文部科学省） ・「中学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「令和5年度全国学力・学習状況調査解説資料」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省・国立教育政策研究所）
- ・「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」（国立教育政策研究所）
- ・「令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要について」（山梨県総合教育センター）
- ・「令和4年度甲府市における調査結果のポイント」（甲府市教育委員会）